

平成 21 年度 再評価事業完了報告書

番号	事業種別	事業名	担当部・課
①	道路	主要地方道 築館登米線 新田道路改良事業	土木部道路課
②	〃	一般県道 志津川登米線 入谷道路改良事業	〃
③	〃	一般県道 馬籠東和線 城の内道路改良事業	〃
④	〃	一般県道 烏屋崎小野田線 烏嶋道路改良事業	〃
⑤	海岸	高潮対策事業 大谷海岸	土木部河川課
⑥	地すべり	弥治郎地すべり対策事業	土木部防災砂防課
⑦	街路	都市計画道路 箱塚中田線 道路改築事業	土木部都市計画課
⑧	農業農村整備	経営体育成基盤整備事業（東大崎地区）	農林水産部農村整備課
⑨	〃	経営体育成基盤整備事業（南谷地地区）	〃
⑩	〃	経営体育成基盤整備事業（出来川右岸地区）	〃
⑪	〃	経営体育成基盤整備事業（河南 2 期地区）	〃
⑫	水産基盤整備	伊里前漁港 広域漁港整備事業（一般）	農林水産部水産業基盤整備課

再評価事業完了報告書

		調書作成年月日		平成22年 2月 3日																								
		事業担当課		道路課																								
事業名	主要地方道築館登米線 <small>にした</small> 新田道路改良事業	補助・単独の別	補助	事業主体	宮城県																							
施行地名	登米市 <small>はさまちようにつた</small> 迫町新田地内	【位置図後掲】		管理主体	宮城県																							
根拠法令	道路法第56条・49条																											
事業の概要	事業目的																											
	<p>主要地方道築館登米線は、栗原市築館字照越神田の一般国道4号からの分岐を起点とし、登米市登米町寺池の登米大橋を終点とする総延長24.7kmの幹線道路である。</p> <p>当区間はJR新田駅前の人家連担区域であり、また、新田第一小学校及び新田中学校があり、通学路に指定されているものの、歩道が整備されていない状況である。狭隘な現道のバイパスとして整備するもので、早期に事業実施することにより、当該区間の安全を図ろうとするものである。</p>																											
	事業内容																											
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">事業着手時 (平成2年度)</td> <td style="width: 15%;">延長3,110m</td> <td style="width: 15%;">幅員6.0(12.0)m</td> <td style="width: 15%;">設計速度50km/h</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>再評価時 (平成12年度)</td> <td>延長3,110m</td> <td>幅員6.0(12.0)m</td> <td>設計速度50km/h</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>再々評価時 (平成17年度)</td> <td>延長3,110m</td> <td>幅員6.0(12.0)m</td> <td>設計速度50km/h</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>完了時 (平成19年度)</td> <td>延長3,110m</td> <td>幅員6.0(12.0)m</td> <td>設計速度50km/h</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					事業着手時 (平成2年度)	延長3,110m	幅員6.0(12.0)m	設計速度50km/h			再評価時 (平成12年度)	延長3,110m	幅員6.0(12.0)m	設計速度50km/h			再々評価時 (平成17年度)	延長3,110m	幅員6.0(12.0)m	設計速度50km/h			完了時 (平成19年度)	延長3,110m	幅員6.0(12.0)m	設計速度50km/h	
事業着手時 (平成2年度)	延長3,110m	幅員6.0(12.0)m	設計速度50km/h																									
再評価時 (平成12年度)	延長3,110m	幅員6.0(12.0)m	設計速度50km/h																									
再々評価時 (平成17年度)	延長3,110m	幅員6.0(12.0)m	設計速度50km/h																									
完了時 (平成19年度)	延長3,110m	幅員6.0(12.0)m	設計速度50km/h																									
【事業内容の変更状況とその要因】																												
なし																												
概要	事業費																											
		全体事業費		費用負担内訳																								
			内用地費	国	県	市町村	その他																					
				[0 %]	[100 %]	[%]	()																					
				[50 %]	[50 %]	[%]	[%]																					
	事業着手時 (平成2年度)	22.5億円	11.7億円	11.25億円	11.25億円	億円	億円																					
	再評価時 (平成12年度)	27.8億円	14.8億円	3.9億円	23.9億円	億円	億円																					
	再々評価時 (平成17年度)	27.8億円	14.8億円	3.9億円	23.9億円	億円	億円																					
	完了時 (平成19年度)	30.0億円	15.1億円	5.7億円	24.5億円	億円	億円																					

【事業費の変更状況とその要因】

○事業着手時～再評価・再々評価時

- ・物価上昇に伴い工事費が増額となったもの
- ・農業協同組合などの補償費を精査した結果増額となったもの。

○再々評価時～完了時

- ・道路土工において土質調査の結果、路床部の地盤が軟弱であり、地盤改良を実施する必要が生じたため工事費が増加したもの。
- ・上下水道の移設費用を精査した結果増額となったもの。

○事業費増減対照表

事業の概要

	事業着手時(平成2年度)		再評価時・再々評価時 (平成12・17年度)		増減		変更の主な理由
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	
本工事費		40.4% 9.1億円		40.6% 11.3億円		41.5% +2.2億円	
改良工	L=3,110m	9.1億円	L=3,110m	11.3億円		+2.2億円	物価上昇に伴う工事費の増額
測量及び試験費	1式	7.6% 1.7億円	1式	6.1% 1.7億円		0.0% 0億円	
用地費及び補償費	1式	52.0% 11.7億円	1式	53.2% 14.8億円		58.5% 3.1億円	補償費の増額
合計		100% 22.5億円		100% 27.8億円		100% 5.3億円	

	再評価時・再々評価時 (平成12・17年度)		完了時 (平成19年度)		増減		変更の主な理由
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	
本工事費		40.6% 11.3億円		40.6% 12.9億円		72.8% +1.6億円	
改良工	L=3,110	11.3億円	L=3,110m	12.9億円		+1.6億円	軟弱地盤対策の増
測量及び試験費	1式	6.1% 1.7億円	1式	6.7% 2.0億円		13.6% +0.3億円	軟弱地盤の調査・設計の増
用地費及び補償費	1式	53.2% 14.8億円	1式	53.2% 15.1億円		13.6% +0.3億円	上下水道の移設費用の増
合計		100% 27.8億円		100% 30.0億円		100% 2.2億円	

事業期間

要

事業着手時 (平成2年度)		再評価時 (平成12年度)		再々評価時 (平成17年度)		完了時 (平成19年度)	
事業採択予定年度	H. 2年度	事業採択年度	H. 2年度	事業採択年度	H. 2年度	事業採択年度	H. 2年度
用地買収予定年度	H. 3年度	用地買収年度	H. 3年度	用地買収年度	H. 3年度	用地買収年度	H. 3年度
工事着手予定年度	H. 8年度	工事着手年度	H. 8年度	工事着手年度	H. 8年度	工事着手年度	H. 8年度
		計画変更実施年度	—	計画変更実施年度	—	計画変更実施年度	—
完成予定年度	H. 10年度	完成予定年度	H. 15年度	完成予定年度	H. 21年度	完成年度	H. 19年度

【事業間変更の要因】

土砂の搬出先との協議により、計画していた時期より早期に土砂を受け入れることができたため、事業期間が短縮された。

	施設管理状況	
		平成20年6月に全線供用した。交通の支障になるような管理上の問題は発生していない。 (宮城県管理)
	事業効果	
		<p>○整備による効果 当区間は、JR新田駅前の人家連担区域を通過していたが、バイパスの完成により、新田駅前方面への通過交通の流入が減少し、歩行者および沿線住民の安全が確保されている。</p> <p>○通過時間の短縮効果 事業完成により、道路延長が3.2kmから3.1kmへ短縮され、通過速度が向上したことから、当該区間の通過時間が6.4分から3.7分に短縮された。</p> <p>○利用者の意見（平成21年8月調査） 名称：「主要地方道築館登米線新田工区整備後の効果についての利用者アンケート」 期間：平成21年8月 方法：県道利用者及び周辺住民の方々へ依頼し郵送により返送 依頼件数10件 回収数 9件 内容：利用者の方々の日頃感じている、道路整備後の利用状況の変化（生活する上で変わったことなど）について、県道利用者及び周辺住民に意見聴取したもの</p> <p>〈代表的な意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイパスが完成し佐沼方面へ早く行けるようになった。 ・歩道が整備され安心して散歩できるようになった。 ・駅前通りの車の台数が少なくなり大変よかった。 ・車がスピードを出すようになった。 ・道が広く横断するのに気をつけるようになった。 ・駅前通りの大型車の交通が減少したため家屋への振動及び騒音が減少した。 <p>※費用対効果分析結果 (再々評価時 平成17年度, 基準年平成17年度) : B/C = 1.9</p>
事業の有効性		

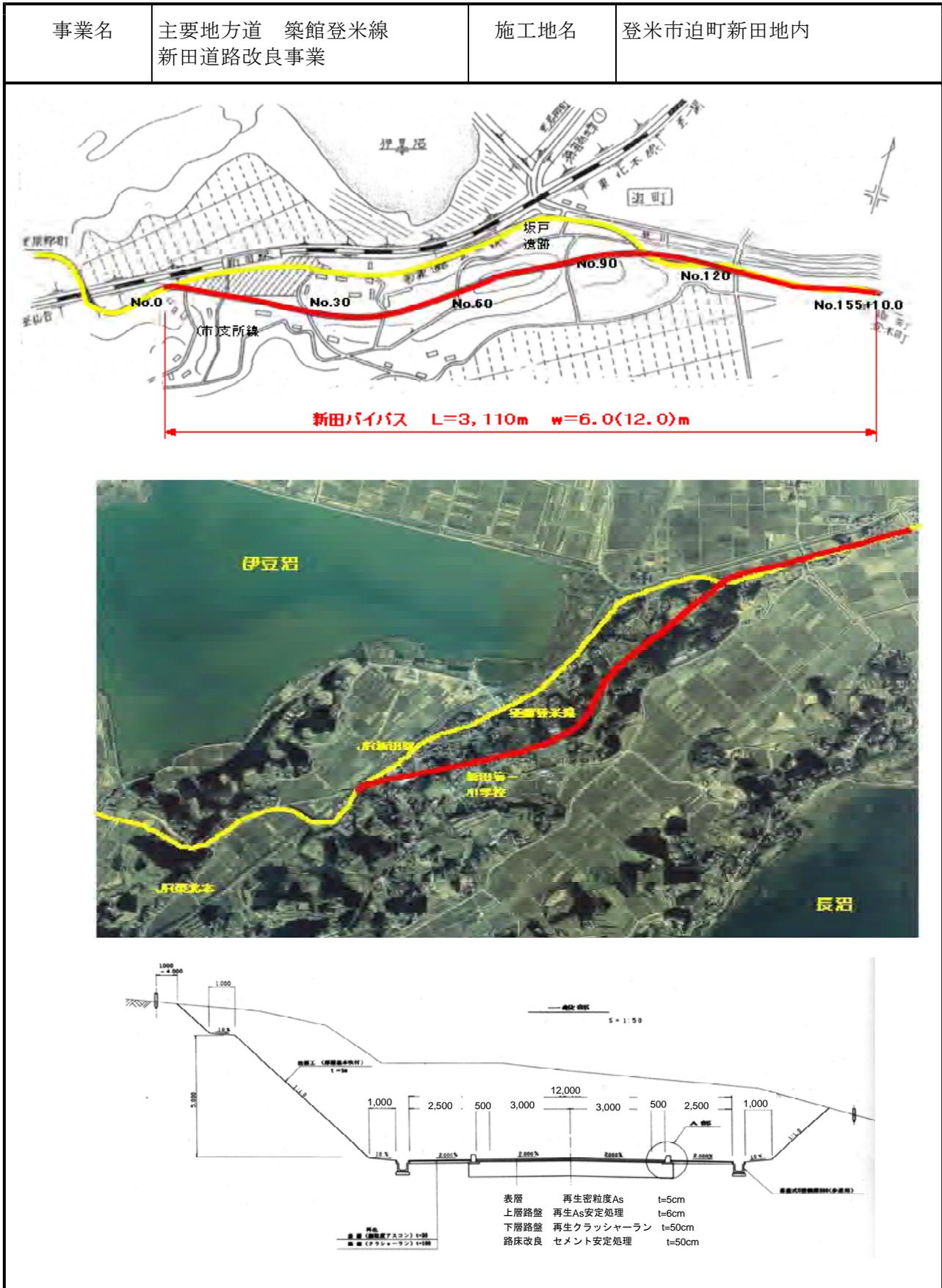
再評価部会意見への対応状況	再評価実施状況		
	再評価実施年度	平成17年度	
	答申	答申	継続妥当
		条件	なし
		別紙意見	1 審議対象事業の実施に関する意見 なし 2 今後の事業実施に関する意見 なし
評価結果	評価結果	事業継続	
	対応方針	条件なし	
	別紙意見に対する対応方針	1 審議対象事業の実施に関する意見への対応方針 なし 2 今後の事業実施に関する意見への対応方針 なし	
対応状況	なし		
今後の課題等	事業目的の達成状況等の総括・今後の課題と対応策等		
	<p>J R新田駅前の人家連担区域で新田第一小学校、新田中学校の通学路にも指定されているにも関わらず、歩道が整備されていない狭隘な道路であったが、本事業によって、バイパスとして新設区間を整備したため車両の円滑な通行が確保された。また、歩道を整備したことにより、歩行者の安全性も確保された。</p> <p>地域住民、道路利用者から「バイパスが完成し佐沼方面へ早く行けるようになった。」、「歩道が整備され安心して散歩できるようになった。」などの好意的な意見が多いことから、事業効果は大きいものと判断する。</p>		

位置図



(参考資料1)

事業概要図



(参考資料2)

事業施行状況等

事業名	主要地方道 築館登米線 新田道路改良事業	施工地名	登米市迫町新田地内
-----	-------------------------	------	-----------

○ 現況写真 (JR新田駅前付近)



○ 完成後状況



再評価事業完了報告書

		調書作成年月日		平成22年 2月 3日																																																	
		事業担当課		道路課																																																	
事業名	一般県道志津川登米線 <small>いりや</small> 入谷道路改良工事	補助・単独の別	単独補助	事業主体	宮城県																																																
施行地名	登米市登米町入谷地内 <small>とよまちょういりや</small>	【位置図後掲】		管理主体	宮城県																																																
根拠法令	道路法第49条																																																				
事業の概要	事業目的	<p>一般県道志津川登米線は、南三陸町志津川の国道45号分岐を起点とし、羽沢峠を経て登米市登米町の一般県道東和登米線に至る延長約20kmの道路である。</p> <p>当区間は、幅員狭小で歩道未設置であること、急カーブで見通しが悪いこと、沿線に採石場があり大型車の通行が多いこと等、安全で円滑な交通に支障をきたしている状況である。</p> <p>このため、当路線と平行して流下している一級河川羽沢川の河川改修と併せて、改良整備を行ない、車両の快適な通行と自転車、歩行者の安全確保等、交通の円滑化を図るものである。</p>																																																			
	事業内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">事業着手時 (平成4年度)</td> <td style="width: 80%;">延長 1,440m 幅員 6.0(10.0)m 設計速度 50km/h</td> </tr> <tr> <td>再評価時 (平成13年度)</td> <td>延長 1,440m 幅員 6.0(10.0)m 設計速度 50km/h</td> </tr> <tr> <td>完了時 (平成19年度)</td> <td>延長 1,440m 幅員 6.0(10.0)m 設計速度 50km/h</td> </tr> </table> <p>【事業内容の変更状況とその要因】 なし</p>				事業着手時 (平成4年度)	延長 1,440m 幅員 6.0(10.0)m 設計速度 50km/h	再評価時 (平成13年度)	延長 1,440m 幅員 6.0(10.0)m 設計速度 50km/h	完了時 (平成19年度)	延長 1,440m 幅員 6.0(10.0)m 設計速度 50km/h																																										
事業着手時 (平成4年度)	延長 1,440m 幅員 6.0(10.0)m 設計速度 50km/h																																																				
再評価時 (平成13年度)	延長 1,440m 幅員 6.0(10.0)m 設計速度 50km/h																																																				
完了時 (平成19年度)	延長 1,440m 幅員 6.0(10.0)m 設計速度 50km/h																																																				
概要	事業費	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">全体事業費</th> <th colspan="4">費用負担内訳</th> </tr> <tr> <th></th> <th>内用地費</th> <th>国</th> <th>県</th> <th>市町村</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>[50 %]</td> <td>[50 %]</td> <td></td> <td>()</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>[0 %]</td> <td>[100 %]</td> <td>[%]</td> <td>[%]</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業着手時 (平成4年度)</td> <td>7.5億円</td> <td>3.7億円</td> <td>億円</td> <td>7.5億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> <tr> <td>再評価時 (平成13年度)</td> <td>7.5億円</td> <td>3.7億円</td> <td>億円</td> <td>7.5億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> <tr> <td>完了時 (平成19年度)</td> <td>8.0億円</td> <td>4.0億円</td> <td>0.3億円</td> <td>7.7億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> </tbody> </table>					全体事業費		費用負担内訳					内用地費	国	県	市町村	その他				[50 %]	[50 %]		()				[0 %]	[100 %]	[%]	[%]	事業着手時 (平成4年度)	7.5億円	3.7億円	億円	7.5億円	億円	億円	再評価時 (平成13年度)	7.5億円	3.7億円	億円	7.5億円	億円	億円	完了時 (平成19年度)	8.0億円	4.0億円	0.3億円	7.7億円	億円	億円
		全体事業費		費用負担内訳																																																	
			内用地費	国	県	市町村	その他																																														
				[50 %]	[50 %]		()																																														
			[0 %]	[100 %]	[%]	[%]																																															
事業着手時 (平成4年度)	7.5億円	3.7億円	億円	7.5億円	億円	億円																																															
再評価時 (平成13年度)	7.5億円	3.7億円	億円	7.5億円	億円	億円																																															
完了時 (平成19年度)	8.0億円	4.0億円	0.3億円	7.7億円	億円	億円																																															

【事業費の変更状況とその要因】

- ・河川協議に伴い多自然型護岸を採用したことにより工事費が増額となったもの。
- ・終点側にある石材会社の建物移転補償を精査した結果、用地補償費が増加したもの。

○事業費増減対照表

	事業着手・再評価時 (平成4・13年度)		完了時 (平成19年度)		増 減		変更の主な理由
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	
本工事費		45.4 % 3.4 億円		45.2 % 3.6 億円		40.0 % +0.2 億円	
改良工	L=1,440m	3.4 億円	L=1,440m	3.6 億円		+0.2 億円	河川護岸変更による増
測量及び試験費	一式	5.6 % 0.4 億円	一式	5.2 % 0.4 億円		% 億円	
用地費及び補償費	一式	49.0 % 3.7 億円	一式	49.6 % 4.0 億円		60.0 % +0.3 億円	建物移転補償の増
その他工事費等		% 億円		% 億円		% 億円	
合計		100 % 7.5 億円		100 % 8.0 億円		100 % +0.5 億円	

事業期間

事業着手時 (平成4年度)		再評価時 (平成13年度)		完了時 (平成19年度)	
事業採択予定年度	H. 4年度	事業採択年度	H. 4年度	事業採択年度	H. 4年度
用地買収予定年度	H. 5年度	用地買収年度	H. 5年度	用地買収年度	H. 5年度
工事着手予定年度	H. 9年度	工事着手年度	H. 9年度	工事着手年度	H. 9年度
		計画変更実施(予定)年度	—	計画変更実施年度	—
完成予定年度	H. 14年度	完成予定年度	H. 17年度	完成年度	H. 19年度

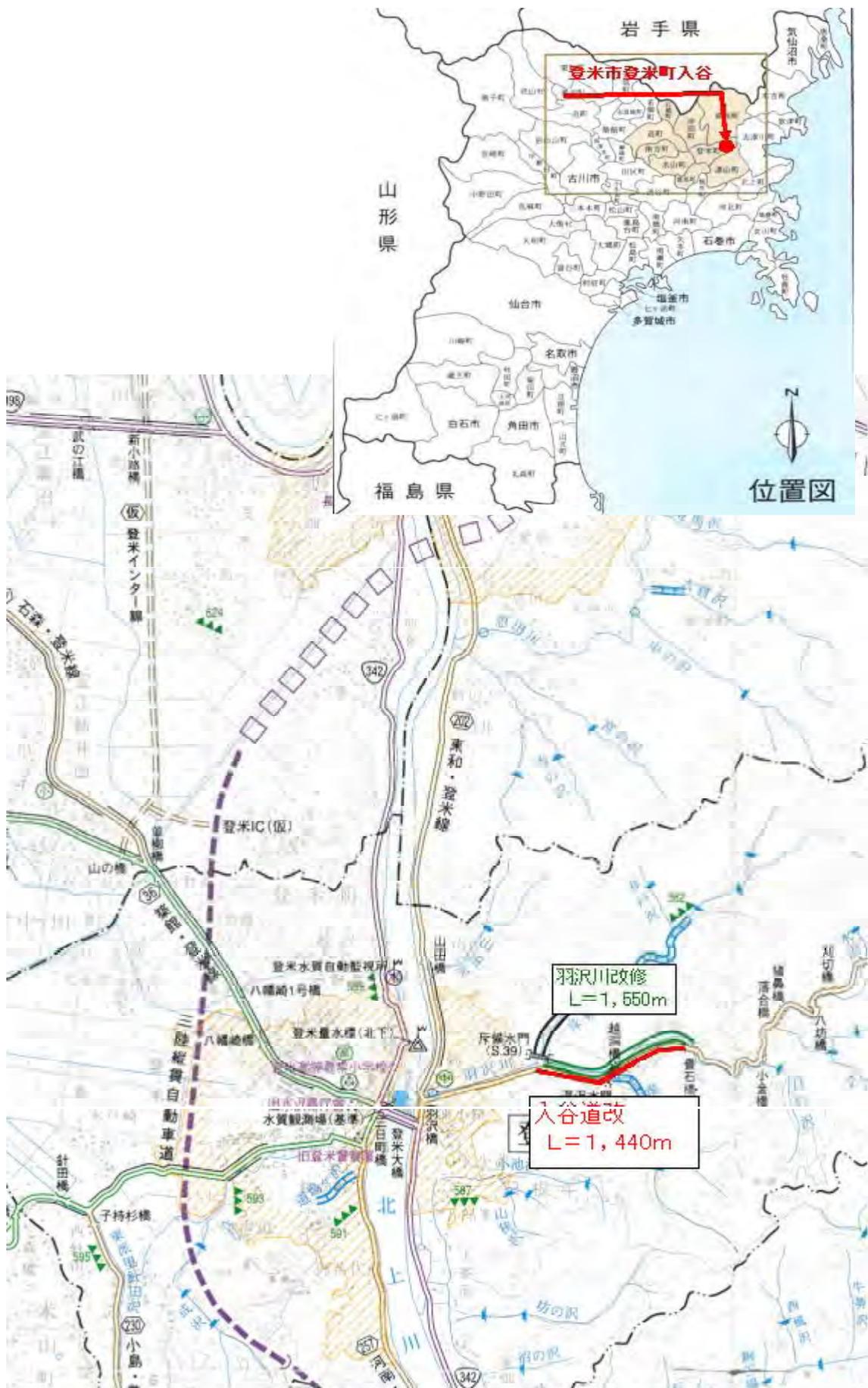
【事業期間変更の要因】

用地補償において、抵当権の解除までに時間を要したことから完成が2年遅れた。

事業の概要	施設管理状況
	平成20年3月に全線供用された。交通の支障になるような管理上の問題は発生していない。(宮城県管理)
事業の有効性	事業効果
	<p>○整備による効果 当区間は、幅員が狭隘で歩道も未設置な上に、近傍の碎石場に入出入りする大型車と一般車のすれ違いも困難であったが、本事業での整備により歩行者の安全が図られ、一般車の通行も円滑になった。</p> <p>○通過時間の短縮効果 事業の完成により、道路延長が1.55kmから1.44kmへ短縮されるとともに、通過速度が向上したことから、当該区間の通過時間が3.7分から1.7分に短縮された。</p> <p>○利用者の意見(平成21年8月調査) 名称：「一般県道志津川登米線入谷工区整備事業の事業後効果等についての利用者アンケート」 期間：平成21年度8月 方法：県道利用者及び周辺住民の方々へ依頼し、郵送により返送 依頼件数：10件 回収 8件 内容：利用者の方々日々感じている、道路整備後の利用状況変化について意見聴取したもの。</p> <p><代表的な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の幅が広くなり、自動車で走行しても安心して走行できるようになった。 ・歩道が整備され歩行者と自転車の安全性が向上した。 ・道路の幅が広がったためスピードを出す車が多くなった。そのため今後子供と高齢者の交通事故が心配される。 ・ゴミを捨てる車がいる。 ・大型車が常に通るため歩道が整備され良かった。 <p>※費用対効果分析結果 (再々評価時 平成13年度、基準年平成12年度) : B/C = 1.58</p>

再評価部会意見への対応状況	再評価実施状況		
	再評価実施年度	平成13年度	
	答申	答申	継続妥当
		条件	なし
		別紙意見	1 審議対象事業の実施に関する意見 なし 2 今後の事業実施に関する意見 なし
	評価結果	評価結果	事業継続
		対応方針	条件なし
		別紙意見に対する対応方針	1 審議対象事業の実施に関する意見への対応方針 なし 2 今後の事業実施に関する意見への対応方針 なし
	対応状況		
	なし		
今後の課題等	事業目的の達成状況等の総括・今後の課題と対応策等		
	<p>幅員が狭隘で歩道も未設置であったため、大型車と一般車のすれ違いも困難であったが、当該事業によって狭隘区間が解消されることにより車両の円滑な通行を確保できた。また、歩道を整備したことにより、歩行者の安全性も確保できた。</p> <p>地元住民や道路利用者から「道路の幅が広くなり、自動車で走行しても安心して走行できるようになった」、「歩道が整備され歩行者と自転車の安全性が向上した」などの好意的な意見が多いことから、事業効果は大きいものと判断する。</p>		

位置図

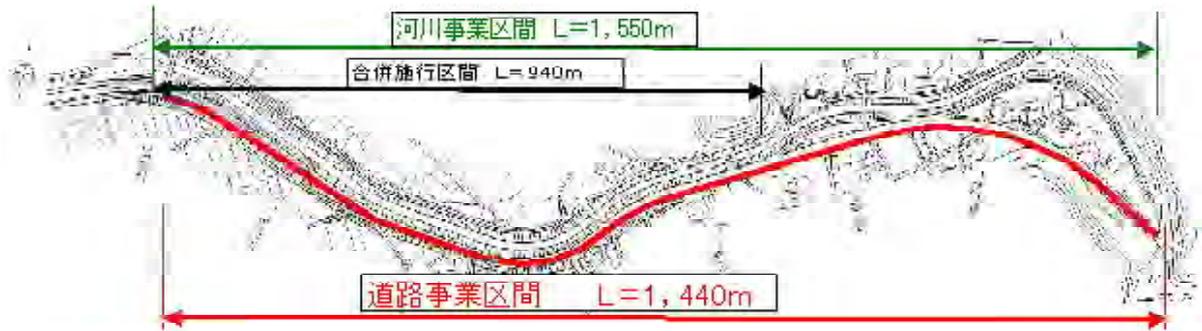


(参考資料1)

事業概要図

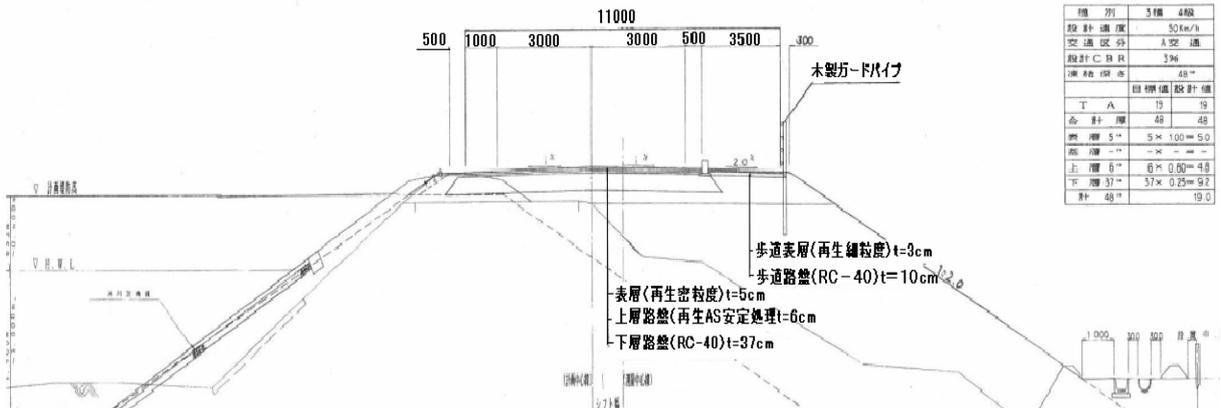
事業名	一般県道 志津川登米線 入谷道路改良事業	施工地名	登米市登米町入谷地内
-----	-------------------------	------	------------

平面図

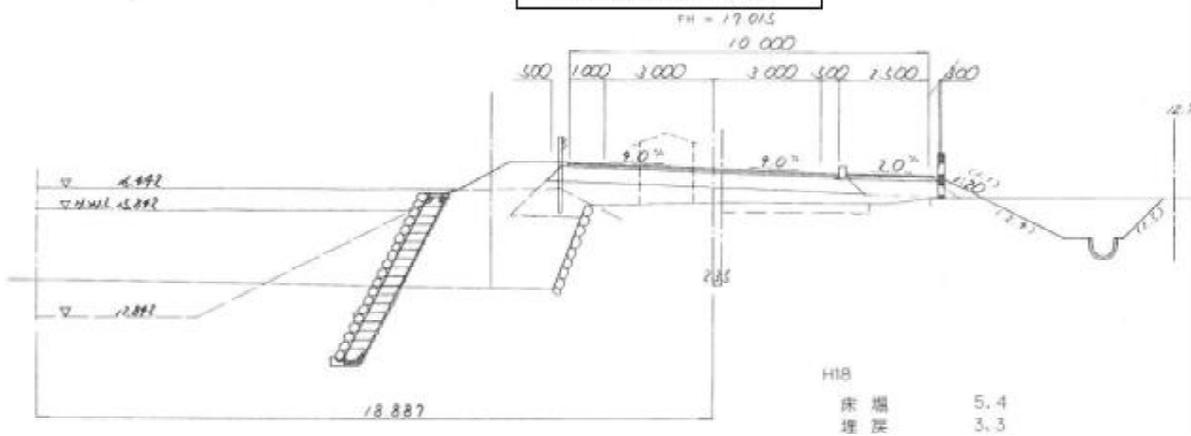


標準横断面

標準横断面(合併施工区間)



標準横断面(単独区間)



(参考資料2)

事業実施状況等

事業名	一般県道 志津川登米線 入谷道路改良工事	施工地名	登米市登米町入谷地内
-----	-------------------------	------	------------

○ 現況写真



○ 完成後状況



再評価事業完了報告書

		調書作成年月日		平成22年 2月 3日																																			
		事業担当課		道路課																																			
事業名	一般県道馬籠東和線 <small>じょうのうち</small> 城の内道路改良事業	補助・単独の別	補助 単独	事業主体	宮城県																																		
施行地名	登米市東和町城の内地区内	【位置図後掲】		管理主体	宮城県																																		
根拠法令	道路法第49条																																						
事業の概要	事業目的	一般県道馬籠東和線は、気仙沼市本吉町馬籠を基点とし登米市東和町飯土井で国道346号に接続する延長約1.4kmの幹線道路であり、物流ルートである国道346号を補完するルートでもある。また、登米市東和町において保全及び保護を行っている鱒淵川の「ゲンジボタル」生息地に対するアクセス道路としての役割を担う重要な路線である。しかし、当区間は河川と並行するなど地形上の理由から、現道幅員が4～5mであり、急カーブの多い隘路となっている。このため、現道の拡幅及び一部をバイパスにより道路改良を実施し、安全で快適なことはもとより、あわせて、「ゲンジボタル」に代表される環境に配慮した道路整備を行うものである。																																					
	事業内容	<table border="1"> <tr> <td>事業着手時 (平成6年度)</td> <td>延長 2,850m 設計速度 50km/h</td> <td>幅員 6.0 (11.0) m</td> </tr> <tr> <td>再評価時 (平成15年度)</td> <td>延長 2,850m 設計速度 50km/h</td> <td>幅員 6.0 (11.0) m</td> </tr> <tr> <td>完了時 (平成19年度)</td> <td>延長 2,850m 設計速度 50km/h</td> <td>幅員 6.0 (11.0) m</td> </tr> </table> <p>【事業内容の変更状況とその要因】 なし</p>				事業着手時 (平成6年度)	延長 2,850m 設計速度 50km/h	幅員 6.0 (11.0) m	再評価時 (平成15年度)	延長 2,850m 設計速度 50km/h	幅員 6.0 (11.0) m	完了時 (平成19年度)	延長 2,850m 設計速度 50km/h	幅員 6.0 (11.0) m																									
事業着手時 (平成6年度)	延長 2,850m 設計速度 50km/h	幅員 6.0 (11.0) m																																					
再評価時 (平成15年度)	延長 2,850m 設計速度 50km/h	幅員 6.0 (11.0) m																																					
完了時 (平成19年度)	延長 2,850m 設計速度 50km/h	幅員 6.0 (11.0) m																																					
事業費	事業費	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">全体事業費</th> <th colspan="4">費用負担内訳</th> </tr> <tr> <th></th> <th>内用地費</th> <th>国 [50 %] [0 %]</th> <th>県 [50 %] [100 %]</th> <th>市町村 [%]</th> <th>その他 () [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業着手時 (平成6年度)</td> <td>18.5億円</td> <td>7.7億円</td> <td>2.1億円</td> <td>16.4億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> <tr> <td>再評価時 (平成15年度)</td> <td>18.5億円</td> <td>7.7億円</td> <td>2.1億円</td> <td>16.4億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> <tr> <td>完了時 (平成19年度)</td> <td>16.4億円</td> <td>7.5億円</td> <td>2.1億円</td> <td>14.3億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> </tbody> </table> <p>【事業費の変更状況とその要因】 ・調整の結果、当初の見込みより近い箇所に土砂を搬出したため工事費が縮減されたもの。 ・水道管移設の補償費を精査した結果、移設補償費が減少したもの。</p>					全体事業費		費用負担内訳					内用地費	国 [50 %] [0 %]	県 [50 %] [100 %]	市町村 [%]	その他 () [%]	事業着手時 (平成6年度)	18.5億円	7.7億円	2.1億円	16.4億円	億円	億円	再評価時 (平成15年度)	18.5億円	7.7億円	2.1億円	16.4億円	億円	億円	完了時 (平成19年度)	16.4億円	7.5億円	2.1億円	14.3億円	億円	億円
		全体事業費		費用負担内訳																																			
		内用地費	国 [50 %] [0 %]	県 [50 %] [100 %]	市町村 [%]	その他 () [%]																																	
事業着手時 (平成6年度)	18.5億円	7.7億円	2.1億円	16.4億円	億円	億円																																	
再評価時 (平成15年度)	18.5億円	7.7億円	2.1億円	16.4億円	億円	億円																																	
完了時 (平成19年度)	16.4億円	7.5億円	2.1億円	14.3億円	億円	億円																																	

○事業費増減対照表

	事業着手・再評価時 (平成 6・15年度)		完了時 (平成19年度)		増 減		変更の主な理由
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	
本工事費		54.1 % 10.0 億円		49.4 % 8.1 億円		90.5 % ▲1.9億円	
改良工	L=2,850m	10.0 億円	L=2,850m	8.1 億円		▲1.9億円	土砂搬出先の変更に伴う減
測量及び試験費	一式	4.3 % 0.8億円		4.9 % 0.8 億円		% 0.0億円	
用地費及び補償費	一式	41.6 % 7.7億円		54.3 % 7.5 億円		9.5 % ▲0.2億円	移転補償費の減
その他工事費等		% 億円		% 億円		% 億円	
合計		100 % 18.5 億円		100 % 16.4 億円		100 % ▲2.1億円	

事業期間

事業着手時 (平成 6 年度)		再 評 価 時 (平成 15 年度)		完 了 時 (平成 19 年度)	
事業採択予定年度	H. 6年度	事業採択年度	H. 6年度	事業採択年度	H. 6年度
用地買収予定年度	H. 6年度	用地買収年度	H. 6年度	用地買収年度	H. 6年度
工事着手予定年度	H. 8年度	工事着手年度	H. 6年度	工事着手年度	H. 6年度
		計画変更実施(予定)年度	—	計画変更実施年度	—
完成予定年度	H. 17年度	完成予定年度	H. 20年度	完 成 年 度	H. 19年度

【事業期間変更の要因】

土砂運搬等において効率的な事業調整を行った結果、事業期間が1年短縮された。

事業の概要	施設管理状況
	<p>平成20年3月に全線供用された。交通の支障になるような管理上の問題は発生していない。(宮城県管理)</p>
事業の有効性	事業効果
	<p>○整備による効果</p> <p>現道については、鱒淵川と民家に挟まれた、幅員4～5mの非常に狭隘な道路であり、自動車のすれ違いも困難なうえ、歩行者も危険にさらされていたが、バイパスの完成によりこれらの問題が解消された。</p> <p>○通過時間の短縮効果</p> <p>事業の完成により、道路延長が3.05kmから2.85kmへ短縮され、通過速度が向上したことから当該工区の通過時間が9.2分から3.4分に短縮された。</p> <p>○利用者の意見(平成21年8月調査)</p> <p>名称：「一般県道馬籠東和線城の内工区整備後の効果についての利用者アンケート」</p> <p>期間：平成21年8月</p> <p>方法：県道利用者及び周辺住民の方々へ依頼し郵送により返送</p> <p>依頼件数：10件 回収数 8件</p> <p>内容：利用者の方々が日頃感じている、道路整備後の利用状況変化(生活する上で変わったことなど)について県道利用者及びその周辺住民の方々に意見聴取したもの</p> <p>〈代表的な意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しも大変良くなり、安心して運転できるようになった。 ・対向車とのすれ違いを気にすることがなくなった。 ・国道までの走行時間が短くなった。 ・道路整備により静かになった。 <p>※費用対効果分析結果</p> <p>(再々評価時 平成15年度, 基準年平成15年度) : B/C = 1.50</p>

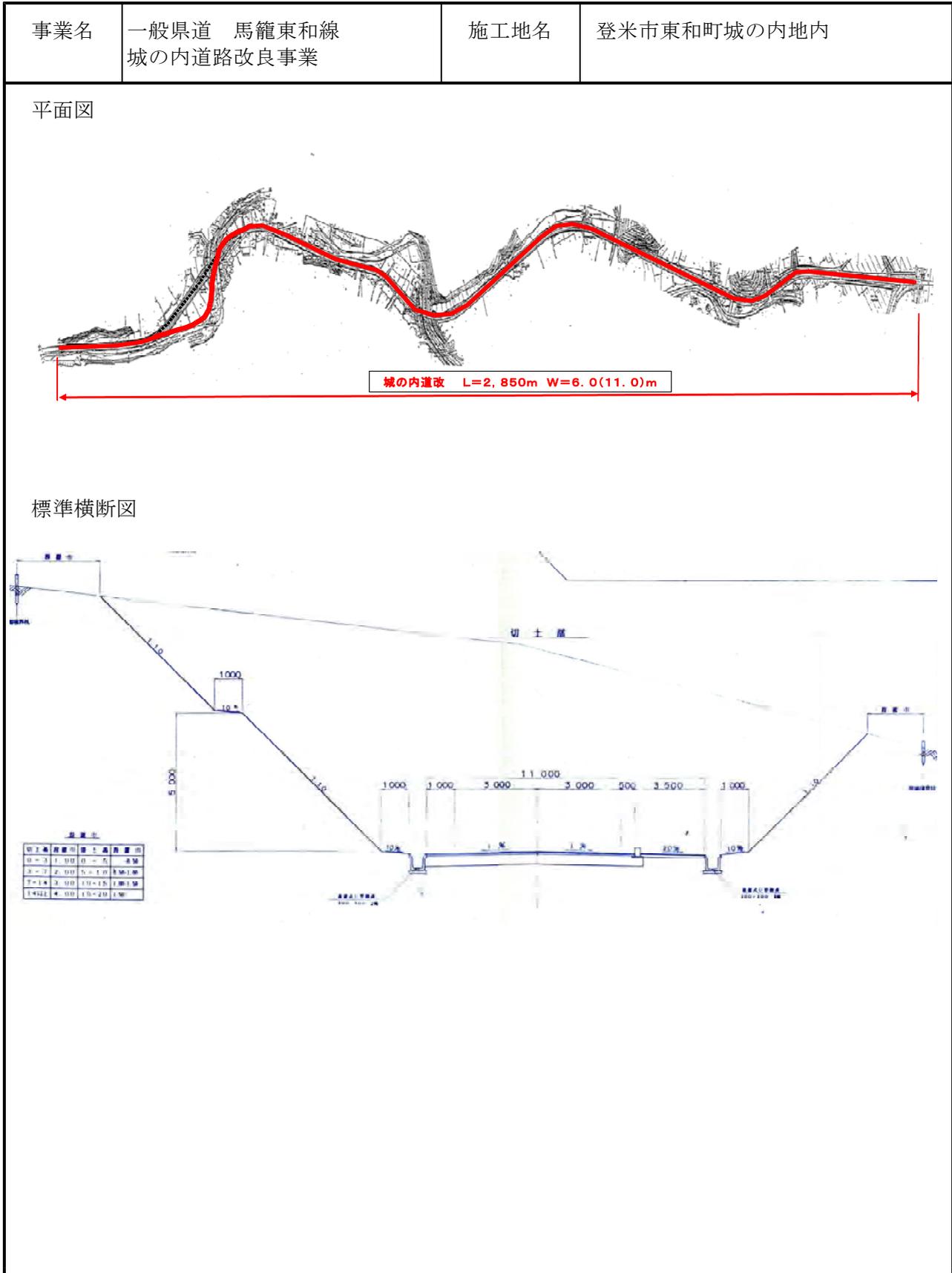
再 評 価 部 会 意 見 へ の 対 応 状 況	再評価実施状況		
	再評価実施年度	平成15年度	
	答	答 申	継続妥当
		条 件	なし
申	別紙意見	1 審議対象事業の実施に関する意見 なし 2 今後の事業実施に関する意見 なし	
評 価 結 果	評価結果	事業継続	
	対応方針	条件なし	
	別紙意見 に対する 対応方針	1 審議対象事業の実施に関する意見への対応方針 なし 2 今後の事業実施に関する意見への対応方針 なし	
今 後 の 課 題 等	事業目的の達成状況等の総括・今後の課題と対応策等		
	<p>急カーブの多い隘路で見通しが悪く車両のすれ違いも困難な状況であったが、本事業により車の円滑な通行が確保できた。また、歩道を整備することにより、歩行者及び通学児童への安全性も確保された。</p> <p>なお、当該事業においては、ゲンジボタル見られるような自然環境に配慮し、道路盛土の衣土に現地発生土を使用するなどしている。</p> <p>地域住民、道路利用者から「見通しも大変良くなり、安心して運転できるようになった。」などの好意的な意見が多いことから、事業効果は大きいものと判断する。</p>		

位置図



(参考資料1)

事業概要図



(参考資料2)

事業施行状況等

事業名	一般県道 馬籠東和線 城の内道路改良事業	施工地名	登米市東和町城の内城内
<p>○ 現況写真</p>  <p>○ 完成後状況</p>  			

再評価事業完了報告書

		調書作成年月日		平成22年 2月 3日																																										
		事業担当課		道路課																																										
事業名	一般県道 鳥屋崎小野田線 <small>とりしま</small> 鳥嶋道路改良事業	補助・単独の別	単独	事業主体	宮城県																																									
施行地名	加美郡加美町鳥嶋地内	【位置図後掲】		管理主体	宮城県																																									
根拠法令	道路法第49条																																													
事業	事業目的	<p>一般県道鳥屋崎小野田線は、加美町鳥嶋（旧宮崎町）の一般県道柳沢中新田線からの分岐を起点とし加美町小野田（旧小野田町）で一般国道347号に至る総延長約3.3kmの幹線道路である。</p> <p>しかし当区間は、狭隘で見通しが悪く、大型車のすれ違いが出来ず、車両及び歩行者等の円滑な交通が確保出来ない状況である。このため、本事業は宮崎北部圃場整備事業（北部地方振興事務所）、（一）柳沢中新田線鳥屋ヶ崎道路改良事業と調整を図りながら、現道の拡幅及び一部をバイパスによる道路改良を実施し、安全で快適な道路空間の確保を図ろうとするものである。</p>																																												
	事業内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">事業着手時 (平成7年度)</td> <td>延長：L=1,100m 設計速度：50km/h 幅員：W=6.0(15.0)m</td> </tr> <tr> <td>再評価時 (平成16年度)</td> <td>延長：L=1,100m 設計速度：50km/h 幅員：W=6.0(15.0)m</td> </tr> <tr> <td>完了時 (平成19年度)</td> <td>延長：L=1,100m 設計速度：50km/h 幅員：W=6.0(15.0)m</td> </tr> </table> <p>【事業内容の変更状況とその要因】 なし</p>				事業着手時 (平成7年度)	延長：L=1,100m 設計速度：50km/h 幅員：W=6.0(15.0)m	再評価時 (平成16年度)	延長：L=1,100m 設計速度：50km/h 幅員：W=6.0(15.0)m	完了時 (平成19年度)	延長：L=1,100m 設計速度：50km/h 幅員：W=6.0(15.0)m																																			
事業着手時 (平成7年度)	延長：L=1,100m 設計速度：50km/h 幅員：W=6.0(15.0)m																																													
再評価時 (平成16年度)	延長：L=1,100m 設計速度：50km/h 幅員：W=6.0(15.0)m																																													
完了時 (平成19年度)	延長：L=1,100m 設計速度：50km/h 幅員：W=6.0(15.0)m																																													
概要	事業費	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">全体事業費</th> <th colspan="4">費用負担内訳</th> </tr> <tr> <th></th> <th>内用地費</th> <th>国</th> <th>県</th> <th>市町村</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th>[%]</th> <th>[100%]</th> <th>[%]</th> <th>() [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業着手時 (平成7年度)</td> <td>4.1億円</td> <td>0.6億円</td> <td>億円</td> <td>4.1億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> <tr> <td>再評価時 (平成16年度)</td> <td>4.3億円</td> <td>0.6億円</td> <td>億円</td> <td>4.3億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> <tr> <td>完了時 (平成19年度)</td> <td>3.4億円</td> <td>0.6億円</td> <td>億円</td> <td>3.4億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> </tbody> </table> <p>【事業費の変更状況とその要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・購入土による盛土としていたが、他事業との調整により、発生土の流用が可能となり、工事費の軽減を図ったもの。 ・防雪柵を再利用し工事費の縮減を図ったもの。 					全体事業費		費用負担内訳					内用地費	国	県	市町村	その他				[%]	[100%]	[%]	() [%]	事業着手時 (平成7年度)	4.1億円	0.6億円	億円	4.1億円	億円	億円	再評価時 (平成16年度)	4.3億円	0.6億円	億円	4.3億円	億円	億円	完了時 (平成19年度)	3.4億円	0.6億円	億円	3.4億円	億円	億円
		全体事業費		費用負担内訳																																										
		内用地費	国	県	市町村	その他																																								
			[%]	[100%]	[%]	() [%]																																								
事業着手時 (平成7年度)	4.1億円	0.6億円	億円	4.1億円	億円	億円																																								
再評価時 (平成16年度)	4.3億円	0.6億円	億円	4.3億円	億円	億円																																								
完了時 (平成19年度)	3.4億円	0.6億円	億円	3.4億円	億円	億円																																								
要																																														

○事業費増減対照表

	事業着手時 (平成 7 年度)		再評価時 (平成 1 6 年度)		増 減		変更の主な理由
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	
本工事費	L=1, 100m	68.3 % 2.8億円	L=1, 100m	69.8 % 3.0億円	—	100.0 % +0.2億円	
道路改良工		2.8億円		3.0億円	—	+0.2億円	・軟弱地盤の地盤処理費が増
測量及び試験費	一式	12.2 % 0.5億円	一式	11.6 % 0.5億円	—	% 億円	
用地費及び補償費	一式	14.6 % 0.6億円	一式	14.0 % 0.6億円	—	% 億円	
その他工事費等	一式	4.9 % 0.2億円	一式	4.6 % 0.2億円	—	% 億円	
合計		100.0 % 4.1億円		100.0 % 4.3億円		100.0 % +0.2億円	

事

業

	再評価時 (平成 1 6 年度)		完了時 (平成 1 9 年度)		増 減		変更の理由
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業費	事業費	
本工事費	L=1, 100m	69.8 % 3.0億円	L=1, 100m	61.8 % 2.1億円	—	100.0 % ▲0.9億円	
道路改良工		3.0億円		2.1億円		▲0.9億円	・他現場発生土の流用により減 ・防雪柵を再利用し減。
測量及び試験費	一式	11.6 % 0.5億円	一式	14.7 % 0.5億円	—	% 億円	
用地費及び補償費	一式	14.0 % 0.6億円	一式	17.6 % 0.6億円	—	% 億円	
その他工事費等	一式	4.6 % 0.2億円	一式	5.9 % 0.2億円	—	% 億円	
合計		100.0 % 4.3億円		100.0 % 3.4億円		100.0 % ▲0.9億円	

の

概

事業期間

	事業着手時 (平成 7 年度)		再評価時 (平成 1 6 年度)		完了時 (平成 1 9 年度)	
事業採択予定年度	H. 7年度	事業採択年度	H. 7年度	事業採択年度	H. 7年度	
用地買収予定年度	H. 10年度	用地買収(予定)年度	H. 10年度	用地買収年度	H. 10年度	
工事着手予定年度	H. 11年度	工事着手(予定)年度	H. 11年度	工事着手年度	H. 11年度	
		計画変更実施(予定)年度	—	計画変更実施年度	—	
完成予定年度	H. 19年度	完成予定年度	H. 19年度	完成年度	H. 19年度	

要

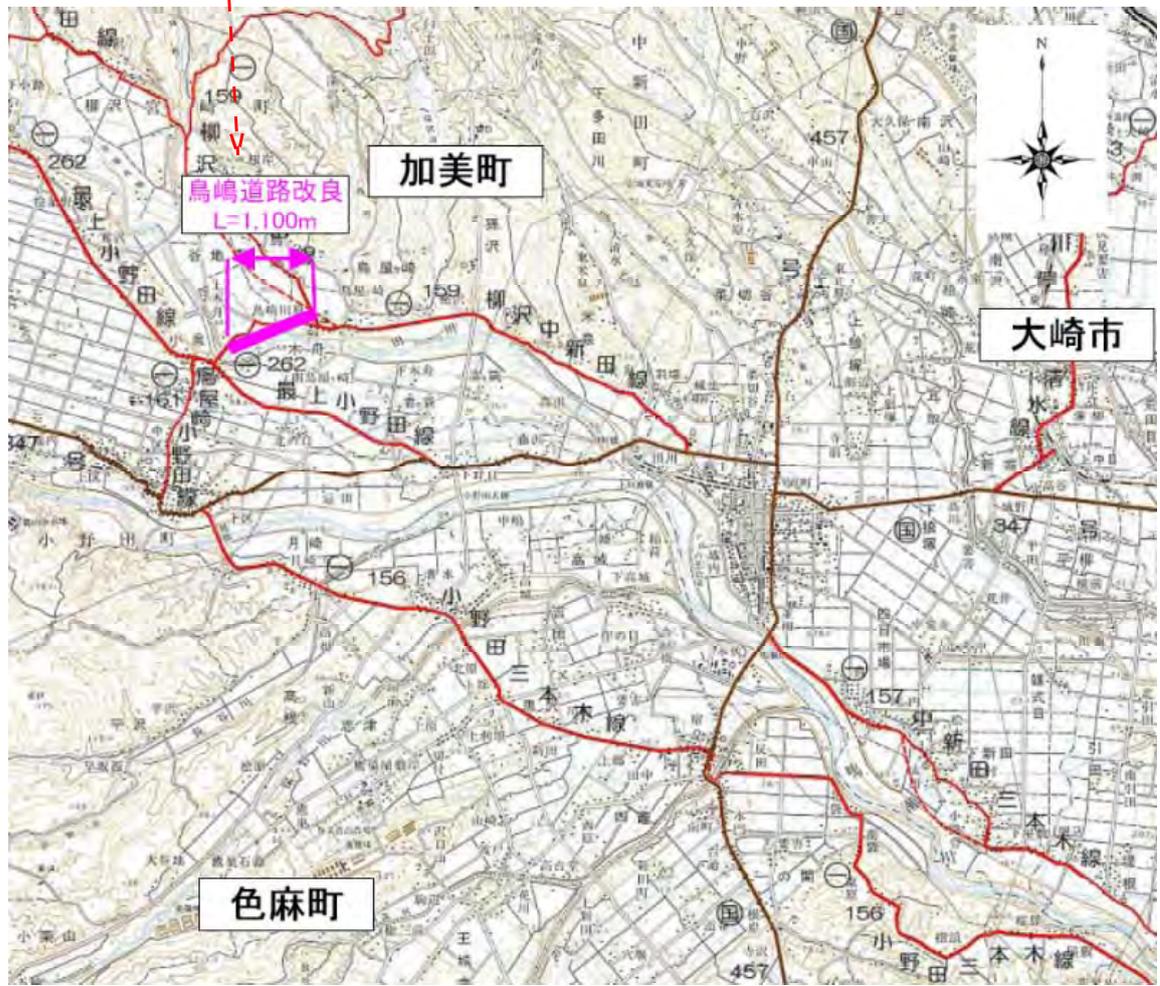
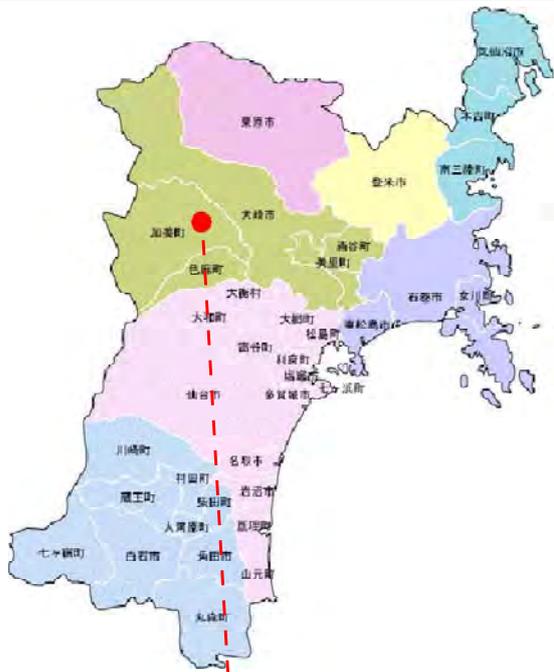
【事業期間変更の要因】

なし

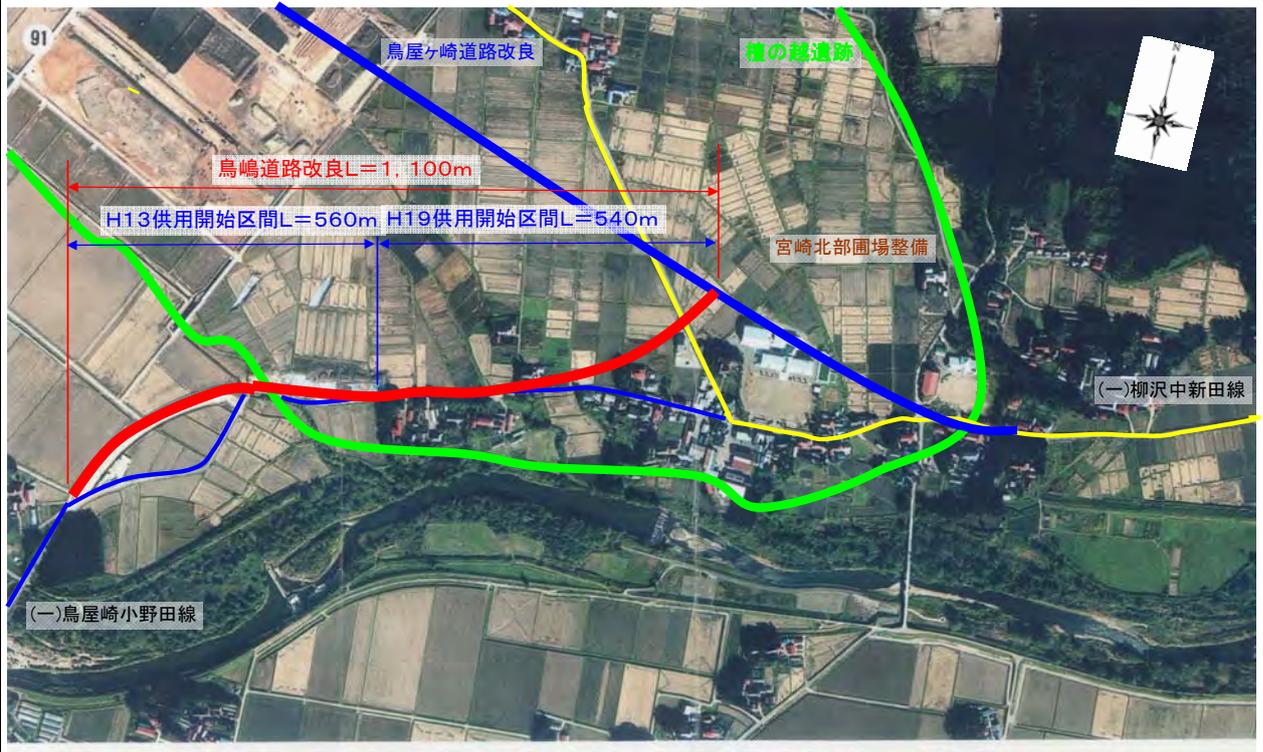
事業の概要	施設管理状況
	平成13年6月に0.56km, 平成19年10月に0.54kmを供用しており, 現在まで, 交通の支障になるような管理上の問題は発生していない。(宮城県管理)
事業の有効性	事業効果
	<p>○整備による効果 現道は, 1車線程度しか幅員のない箇所が連続しており, 非常に狭隘な道路だった。今回の事業により, 車線2車線と歩道を確保し, 狭隘区間の解消を図った。また, 歩道を整備したことにより, 付近の小学校や中学校への通学路としての安全性も確保された。</p> <p>○通過時間の短縮効果 事業完成により, 道路延長が1.2kmから1.1kmへ短縮されるとともに, 通過する速度が向上したことから, 通過時間が2.4分から1.3分へ短縮された。</p> <p>○安全性の向上効果 当該区間では, 平成15年以降平成21年1月までの間, 事故は発生していない。平成19年10月の供用開始以降は, 道路改良により更なる安全性の向上が図られた。</p> <p>○利用者の意見 名称: 「(一)鳥屋崎小野田線鳥嶋道路改良事業の事業後効果後の利用者アンケート」 期間: 平成21年8月 方法: 加美町役場を通じて, 県道利用者や周辺住民へ依頼した。 全回答数13件 内容: 利用者が日頃感じている整備前と整備後での利用状況の変化(生活する上で変わったことなど)について, 県道利用者及びその周辺住民の方々へアンケートをとったもの。</p> <p><代表的な意見> ・改良前に比べ道幅が広くなり, 安全に通行できるようになった。 ・従来幅員が狭く大型車両とのすれ違いに危険を感じていたが改善され安心して通れるようになった。 ・歩道が広く, 自転車や歩行者が安心して通行できるようになった。 ・速度を上げる人もいるように見受けられる。 ・集落の行き来は便利となった。整備されてよかった。 ・冬道のカーブの傾斜が少し怖い。</p> <p>※費用対効果分析結果 (再評価時 平成16年 基準年 平成16年) B/C = 1.30</p>

再評価部会意見への対応状況	再評価実施状況			
	再評価実施年度		平成16年度	
	答申	答申	継続妥当	
		条件	なし	
		別紙意見	1 審議対象事業の実施に関する意見 なし 2 今後の事業実施に関する意見 なし	
	評価結果	評価結果	事業継続	
		対応方針	なし	
		別紙意見に対する対応方針	1 審議対象事業の実施に関する意見への対応方針 なし 2 今後の事業実施に関する意見への対応方針 なし	
	対応状況			
			なし	
今後の課題等	事業目的の達成状況等の総括・今後の課題と対応策等			
	<p>現道拡幅及び一部バイパス化により、道路延長の短縮、走行速度のアップが実現し、通過時間の短縮が図れたとともに、狭隘部が改善されたことで、見通しの確保及び円滑な交通が確保された。また、歩車道を分離したため、通学児童や一般歩行者の安全が確保された。</p> <p>地域住民、道路利用者から「従来幅員が狭く大型車両とのすれ違いに危険を感じていたが改善され安心して通れるようになった。」、「歩道が広く、自転車や歩行者が安心して通行できるようになった。」などの好意的な意見が多いことから、事業効果は大きいものと判断する。</p>			

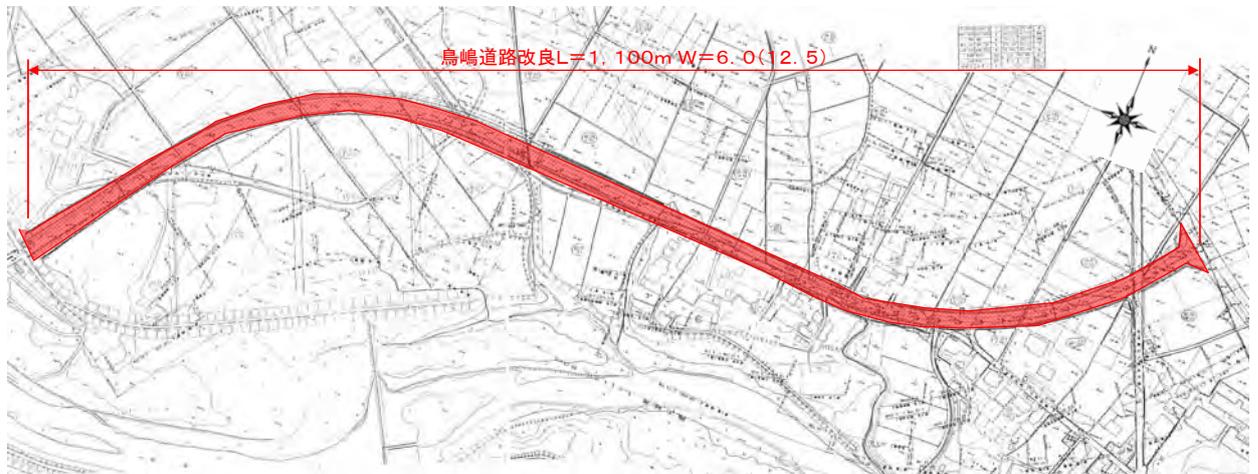
位
置
图



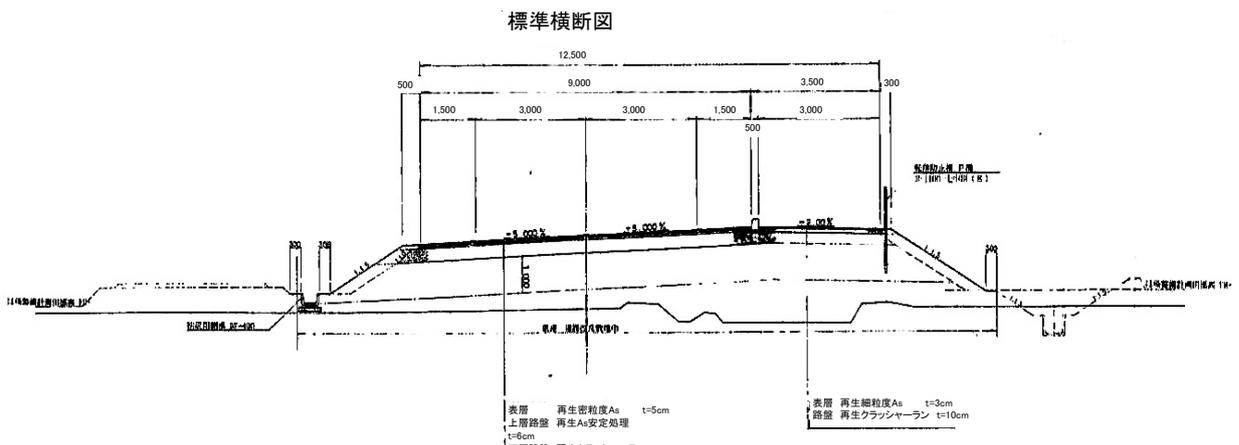
概要図



平面図



標準横断面図



事業完成後の状況等

事業名	一般県道 鳥屋崎小野田線 鳥嶋道路改良事業	施工地名	加美郡加美町鳥嶋地内
-----	--------------------------	------	------------

○着手前状況



○完成後状況



再評価事業完了報告書

		調書作成年月日		平成22年 2月 3日																																																
		事業担当課		河川課																																																
事業名	高潮対策事業 <small>おおや</small> 大谷海岸	補助・単独の別	補助	事業主体	宮城県																																															
施行地名	<small>けせんぬましもとよしちようおおや</small> 気仙沼市本吉町大谷	【位置図後掲】		管理主体	宮城県																																															
根拠法令	海岸法 第27条第1項																																																			
事業の概要	事業目的	大谷海岸の高潮対策として、人工リーフの整備を行うものである。																																																		
	事業内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">事業着手時 (平成 元年度)</td> <td>人工リーフ 4基 (L=560m, W=60m)</td> </tr> <tr> <td>再評価時 (平成 11年度)</td> <td>人工リーフ 4基 (L=560m, W=60m) 緩傾斜護岸 L=170m</td> </tr> <tr> <td>再々評価時 (平成 16年度)</td> <td>人工リーフ 4基 (L=560m, W=60m) 緩傾斜護岸 L=170m</td> </tr> <tr> <td>完了時 (平成 19年度)</td> <td>人工リーフ 4基 (L=560m, W=26m) 緩傾斜護岸 L=170m,</td> </tr> </table>				事業着手時 (平成 元年度)	人工リーフ 4基 (L=560m, W=60m)	再評価時 (平成 11年度)	人工リーフ 4基 (L=560m, W=60m) 緩傾斜護岸 L=170m	再々評価時 (平成 16年度)	人工リーフ 4基 (L=560m, W=60m) 緩傾斜護岸 L=170m	完了時 (平成 19年度)	人工リーフ 4基 (L=560m, W=26m) 緩傾斜護岸 L=170m,																																							
	事業着手時 (平成 元年度)	人工リーフ 4基 (L=560m, W=60m)																																																		
	再評価時 (平成 11年度)	人工リーフ 4基 (L=560m, W=60m) 緩傾斜護岸 L=170m																																																		
再々評価時 (平成 16年度)	人工リーフ 4基 (L=560m, W=60m) 緩傾斜護岸 L=170m																																																			
完了時 (平成 19年度)	人工リーフ 4基 (L=560m, W=26m) 緩傾斜護岸 L=170m,																																																			
【事業内容の変更状況とその要因】	<p>①事業着手時～再評価時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸保全区域全体の浸水防護を図る為、無堤区間への緩傾斜護岸工を追加した。 <p>②再々評価時～完了時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂浜幅の回復による消波機能の向上を考慮し、人工リーフの効果判定を実施した結果、暫定断面での整備により当初計画と同等の波浪低減効果が確認されたことから、人工リーフ断面の拡幅を減工した。 <p>人工リーフ：波浪を低減させる為、海中に設置した広い天端幅を有する消波構造物</p>																																																			
事業費	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">全体事業費</th> <th colspan="4">費用負担内訳</th> </tr> <tr> <th></th> <th>内用地費</th> <th>国</th> <th>県</th> <th>市町村</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th>[50%]</th> <th>[50%]</th> <th>[%]</th> <th>(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業着手時 (平成 元年度)</td> <td>26.8億円</td> <td>億円</td> <td>13.40億円</td> <td>13.40億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> <tr> <td>再評価時 (平成 11年度)</td> <td>26.8億円</td> <td>億円</td> <td>13.40億円</td> <td>13.40億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> <tr> <td>再々評価時 (平成 16年度)</td> <td>25.9億円</td> <td>億円</td> <td>12.95億円</td> <td>12.95億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> <tr> <td>完了時 (平成 19年度)</td> <td>16.6億円</td> <td>億円</td> <td>8.30億円</td> <td>8.30億円</td> <td>億円</td> <td>億円</td> </tr> </tbody> </table>					全体事業費		費用負担内訳					内用地費	国	県	市町村	その他				[50%]	[50%]	[%]	(%)	事業着手時 (平成 元年度)	26.8億円	億円	13.40億円	13.40億円	億円	億円	再評価時 (平成 11年度)	26.8億円	億円	13.40億円	13.40億円	億円	億円	再々評価時 (平成 16年度)	25.9億円	億円	12.95億円	12.95億円	億円	億円	完了時 (平成 19年度)	16.6億円	億円	8.30億円	8.30億円	億円	億円
	全体事業費		費用負担内訳																																																	
		内用地費	国	県	市町村	その他																																														
			[50%]	[50%]	[%]	(%)																																														
事業着手時 (平成 元年度)	26.8億円	億円	13.40億円	13.40億円	億円	億円																																														
再評価時 (平成 11年度)	26.8億円	億円	13.40億円	13.40億円	億円	億円																																														
再々評価時 (平成 16年度)	25.9億円	億円	12.95億円	12.95億円	億円	億円																																														
完了時 (平成 19年度)	16.6億円	億円	8.30億円	8.30億円	億円	億円																																														
【事業費の変更状況とその要因】	<ul style="list-style-type: none"> ・人工リーフ断面拡幅の減工により事業費が減額となった。 																																																			

○事業費増減対照表

	事業着手時 (平成 元年度)		再評価時 (平成 1 1年度)		増 減		変更の主な理由
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	
本工事費		90.3% 24.0億円		90.3% 24.0億円		0億円	
人工リーフ	L=560m	24.0億円	L=560m	23.3億円	—	▲0.7億円	被覆ブロックの大型化による製作設置費の減額
緩傾斜護岸	—	億円	L=170m	0.7億円	L=170m	0.7億円	無堤部区間への施設追加による増額
測量及び試験費	一式	3.8% 1.0億円	一式	3.3% 1.0億円	—	0億円	
用地費及び補償費		% 億円		% 億円		% 億円	
その他工事費等	一式	5.8% 1.6億円	一式	5.8% 1.6億円	—	0億円	
合計		100% 26.6億円		100% 26.6億円		100% 0億円	

	再々評価時 (平成 1 6年度)		完了時 (平成 1 9年度)		増 減		変更の主な理由
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	
本工事費		90.3% 23.4億円		88.0% 14.6億円		94.6% ▲8.8億円	
人工リーフ	L=560m	22.7億円	L=560m	13.9億円	—	▲8.8億円	断面拡幅の減工による減額
緩傾斜護岸	L=170m	0.7億円	L=170m	0.7億円	—	0億円	
測量及び試験費	一式	3.9% 1.0億円	一式	6.0% 1.0億円	—	0億円	
用地費及び補償費		% 億円		% 億円		% 億円	
その他工事費等	一式	5.8% 1.5億円	一式	6.0% 1.0億円	—	5.4% ▲0.5億円	全体事業費の減額による、事務費の減額
合計		100% 25.9億円		100% 16.6億円		100% ▲9.3億円	

事業期間

	事業着手時 (平成 元年度)	再々評価時 (平成 1 6年度)	完了時 (平成 1 9年度)
事業採択予定年度	H. 元年度	事業採択年度 H. 元年度	事業採択年度 H. 元年度
用地買収予定年度	H. 年度	用地買収(予定)年度 H. 年度	用地買収年度 H. 年度
工事着手予定年度	H. 元年度	工事着手(予定)年度 H. 元年度	工事着手年度 H. 元年度
		計画変更実施(予定)年度 H. 1 1年度	計画変更実施年度 H. 1 9年度
完成予定年度	H. 1 9年度	完成予定年度 H. 2 3年度	完成年度 H. 1 9年度

【事業期間変更の要因】

・人工リーフ断面拡幅の減工により、事業期間が短縮となった。

事業の概要

施設管理状況

・海岸保全施設として、宮城県が管理しており、平成19年度に策定した海岸維持管理基準（案）に基づき、パトロール及び維持管理作業を実施している。

事業効果

○想定される事業効果

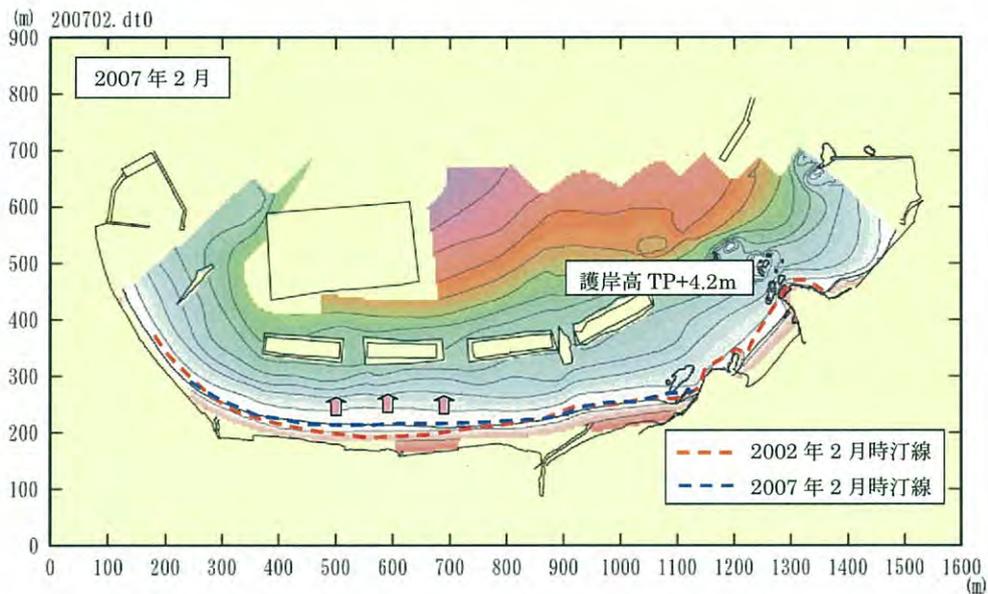
・事業の完了により、30年確率波における越波防止機能が確保され、背後地資産、国道45号及びJR気仙沼線の越波による浸水被害防止が図られる。

田	畑	宅地 その他	計	人口	人家	工場	公共 建物	鉄道	道路	その他
ha	ha	ha	ha	人	戸	棟	棟	km	km	
0.3	0.2	16.1	16.6	254	62	-	2	0.8	0.8	

○効果の発現状況

・人工リーフ（暫定幅2.6m）の整備により、波浪が制御され砂浜の回復が確認された。
 ・緩傾斜護岸工の整備により、無堤部の解消が図られたとともに、人工リーフ及び回復した砂浜の波浪低減効果により、波浪が護岸高のTP+4.2m以下になることが、推計された。なお、平成18年10月6日から7日にかけての低気圧により、江ノ島観測所（気象庁設置）で、30年確率波を超える波浪が観測されたが、背後地での浸水被害は発生しなかった。

汀線測量結果による砂浜の回復状況



打上高試算結果

人工リーフ設置後の大谷海岸の状況

	4号リーフ	3号リーフ	2号リーフ	1号リーフ
計画打上高 (TP,m)	4.2m	4.2m	4.2m	4.2m
対策前現況打上高 (TP,m)	-	5.41m	5.29m	-
計画砂浜幅(m)	30m			
() 人工リーフ暫定時	(40m)			
対策後浜幅(m)	40m	50m	50m	40m
対策後打上高 (TP,m)	4.07m	3.17m	3.77m	3.87m

事業の有効性

事業効果

波浪低減状況

着手前（平成2年11月 低気圧通過時）

（波浪は護岸直前で砕波し、打上高も高い）



完成後（平成19年9月 台風9号通過時）

（沖合の人工リーフ及び砂浜による砕波により波浪が低減）



※費用対効果分析結果（再々評価時平成16年，基準年平成16年）：B/C＝8.4
《（完了時 平成19年，基準年平成19年）：B/C＝11.2》

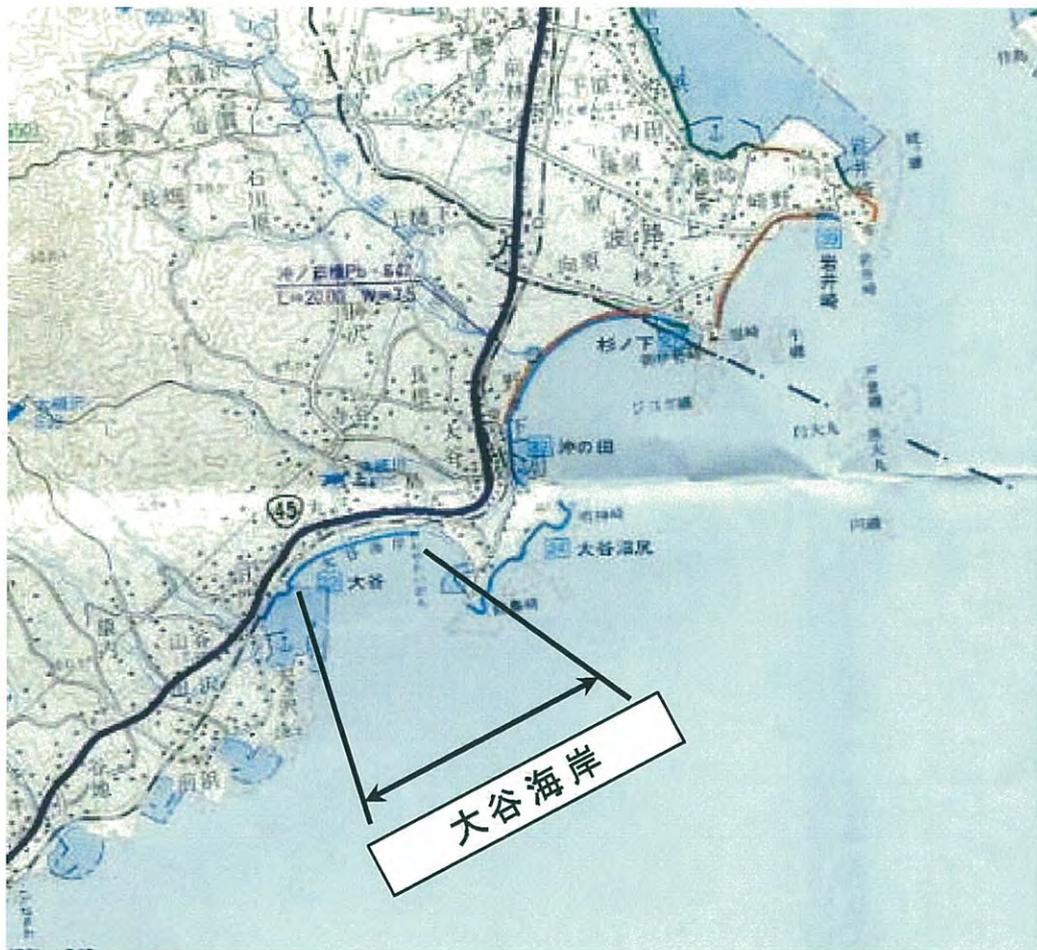
事業の有効性

再評価部会意見への対応状況	再評価実施状況		
	再評価実施年度	平成16年度	
	答申	答申	継続妥当
		条件	なし
評価結果	別紙意見	1 審議対象事業の実施に関する意見 ・なし 2 今後の事業実施に関する意見 ・海岸侵食は砂防事業などによる流出土砂量の減少や、防波堤など海岸構造物による砂の流れの変化を要因とする場合があるので、事業計画に当たっては土砂収支の検討を行うこと。	
	評価結果	事業継続	
	対応方針	なし	
今後の課題等	別紙意見に対する対応方針	1 審議対象事業の実施に関する意見への対応方針 ・なし 2 今後の事業実施に関する意見への対応方針 ・沿岸域総合管理研究会からの国への提言（平成15年3月）等を踏まえ、国の動向をみながら対処していく	
	対応状況		
	<p>・平成16年度に「三陸南湾沿岸海岸保全基本計画」を策定し、必要となる海岸保全施設整備の他、サンドバイパス、サンドリサイクル工法を含めた海岸保全への対処により、防護及び保全効果の向上を図ることとしている。 なお、本海岸においては、定期的な海岸地形等のモニタリングを実施して行くこととしている。</p> <p>サンドバイパス：海岸構造物等により遮断され堆積した砂を、侵食された漂砂下手側の海岸に人工的に移動させ、砂浜の回復を図る工法 サンドリサイクル：漂砂下手側に堆積した砂を、上手側に戻し砂浜の復元を図る工法</p>		
事業目的の達成状況等の総括・今後の課題と対応策等			
<p>・施設整備後の越波高推計結果及び平成18年10月6日から7日にかけての計画規模を上回る波浪においても、背後への浸水被害が発生しなかったことから、事業目的である30年確率波による越波防止機能が確保されており、事業目的は達成されていると判断する。また、施設整備後の砂浜幅等の追跡測定の結果、砂浜は安定しており、今後も波浪低減効果は維持され则认为。</p> <p>・波浪低減効果を確保するためには、40mの砂浜幅の確保が必要であることから、今後もパトロール等により、必要砂浜幅の確認を実施していく。</p>			

位

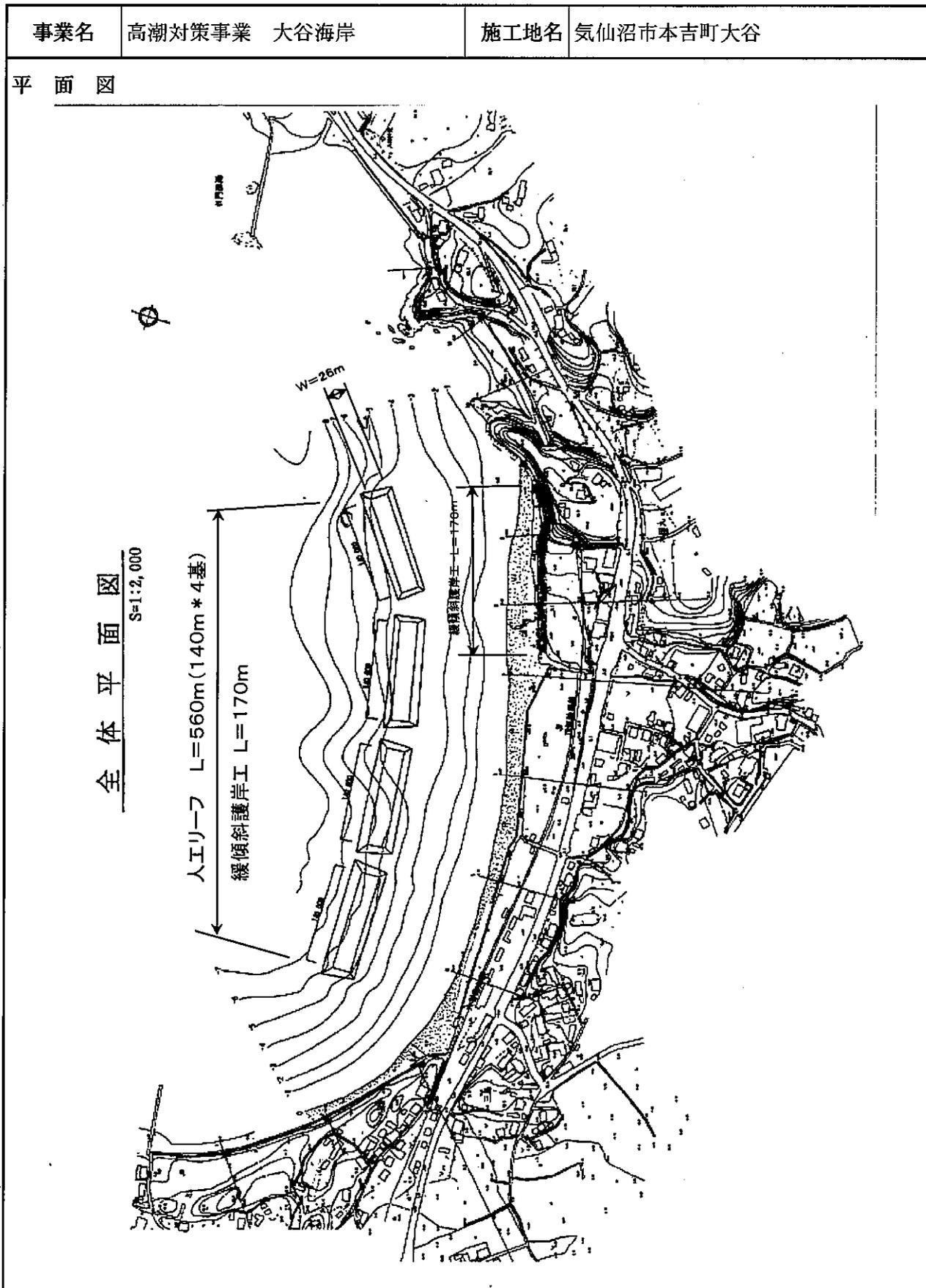


置



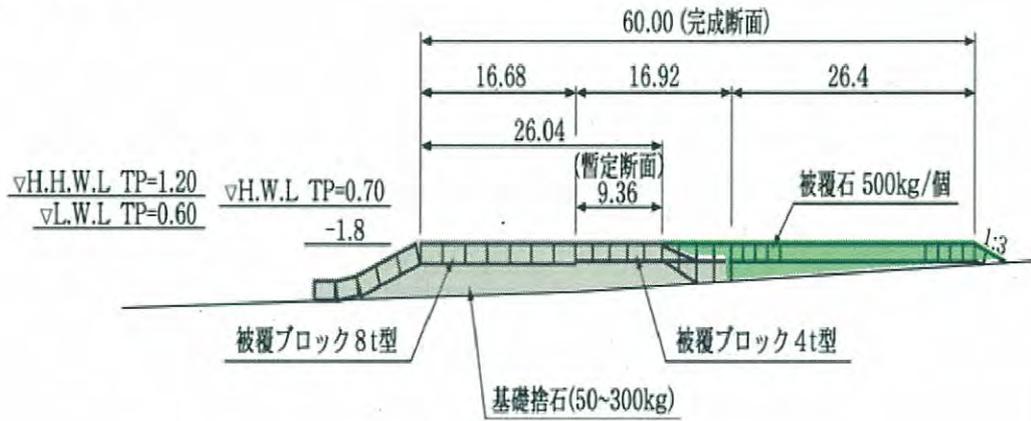
図

事業概要図



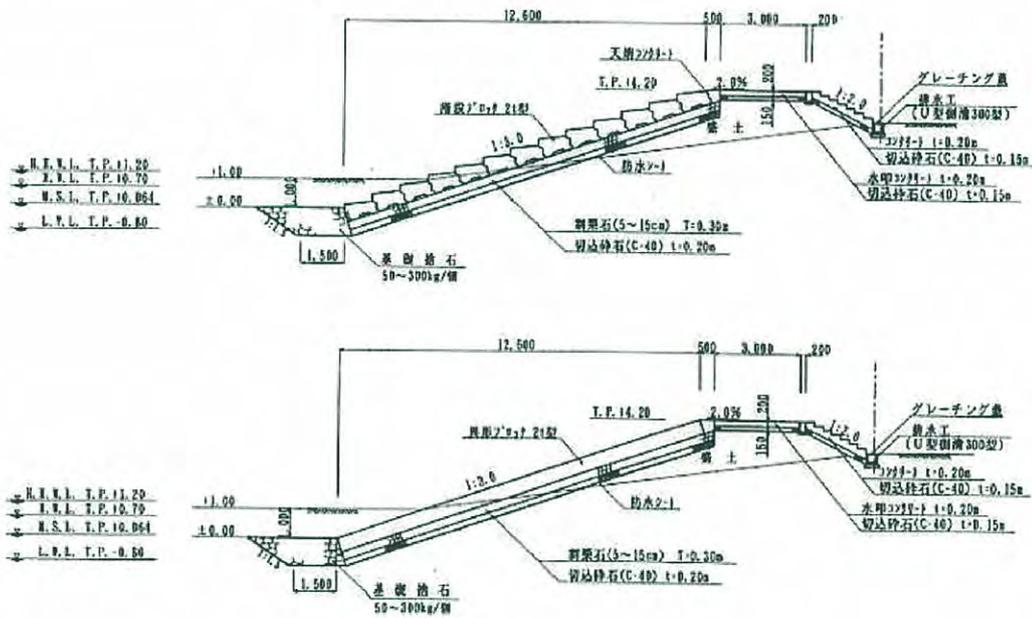
標準横断面図

人工リーフ断面図



緩傾斜護岸工断面図

緩傾斜護岸標準断面図 S=1:200



(参考資料 2)

事業完成後の状況等

事業名	高潮対策事業 大谷海岸	施工地名	気仙沼市本吉町大谷
着 手 前			
			
完 成			
			

(参考資料 2)

事業完成後の状況等

事業名	高潮対策事業 大谷海岸	施工地名	気仙沼市本吉町大谷
<p data-bbox="325 416 841 488">着手前（平成2年11月 低気圧通過時） 来襲する波が堤防直前で碎波している</p>  <p data-bbox="325 1095 1177 1167">完成後（平成19年9月 台風9号通過時） 来襲する波は人工リーフ及び回復した砂浜により碎波されている</p> 			

再評価事業完了報告書

		調書作成年月日		平成22年 2月 3日			
		事業担当課		防災砂防課			
事業名	やしろ 弥治郎地すべり対策事業	補助・単独の別	補助	事業主体	宮城県		
施行地名	しろいしふくおかやつみやぎやしろ 白石市福岡八宮字弥治郎地内	【位置図後掲】		管理主体	宮城県		
根拠法令	地すべり等防止法第29条						
事業概要	事業目的						
	地すべり危険箇所指定されている白石市弥治郎地区において、地すべりにより人家や公共施設等が被害を受ける恐れがあることから、地下水排除工、擁壁工、抑止アンカー工、表面水路工等の対策工事を実施するもの。						
	事業内容						
	事業着手時 (昭和61年度)	地すべり観測・機構解析、地すべり対策工事 (地下水排除工、擁壁工、表面水路工等)					
	再評価時 (平成10年度)	地すべり観測・機構解析、地すべり対策工事 (地下水排除工、擁壁工、表面水路工等)					
	再々評価時 (平成16年度)	地すべり観測・機構解析、地すべり対策工事 (地下水排除工、擁壁工、抑止アンカー工、表面水路工等)					
	完了時 (平成19年度)	地すべり観測・機構解析、地すべり対策工事 (地下水排除工、擁壁工、抑止アンカー工、表面水路工等)					
	【事業内容の変更状況とその要因】						
	対策ブロックにおいて、当初計画した対策工を実施した後も、地すべり変動が観測されたことから、地下水排除工および抑止アンカー工による追加対策を実施したもの。						
	の事業費						
概要			費用負担内訳				
	全体事業費		国	県	市町村	その他	
		内地費	[50.00 %]	[50.00 %]	[- %]	[- %]	
	事業着手時 (昭和61年度)	3.00 億円	0.01 億円	1.50 億円	1.50 億円	- 億円	- 億円
	再評価時 (平成10年度)	3.00 億円	0.01 億円	1.50 億円	1.50 億円	- 億円	- 億円
	再々評価時 (平成16年度)	5.67 億円	0.02 億円	2.84 億円	2.84 億円	- 億円	- 億円
完了時 (平成19年度)	5.37 億円	0.02 億円	2.69 億円	2.69 億円	- 億円	- 億円	
【事業費の変更状況とその要因】							
◆全体事業計画等変更内容							
・平成16年度:事業費2.67億円増(追加対策工:地下水排除工+抑止アンカー工の設計・施工)							
・平成19年度:請負差金等により精算事業費全体が減額となったもの。							

○事業費増減対照表

	事業着手時 (昭和61年度)		再々評価時(計画変更) (平成16年度)		完了時 (平成19年度)		事業着手時からの増減 (H19-S61)		変更の主な理由
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	
本工事費	一式	67.0% 2.01 億円	一式	69.0% 3.91 億円	一式	67.2% 3.61 億円	—	67.5% 1.60 億円	追加対策に伴う増額
測量及び試験費	一式	27.7% 0.83 億円	一式	26.3% 1.49 億円	一式	27.7% 1.49 億円	—	27.9% 0.66 億円	追加対策に伴う増額
用地費及び補償費	一式	0.3% 0.01 億円	一式	0.4% 0.02 億円	一式	0.4% 0.02 億円	—	0.4% 0.01 億円	追加対策に伴う増額
その他工事費等	一式	5.0% 0.15 億円	一式	4.4% 0.25 億円	一式	4.7% 0.25 億円	—	4.2% 0.10 億円	追加対策に伴う増額
合計		100.0% 3.00 億円		100.1% 5.67 億円		100.0% 5.37 億円		100.0% 2.37 億円	


5.67億円増額
(追加対策によるもの)

0.3億円減額
(請負差金によるもの)

事業概要

事業期間

事業着手時 (昭和 61 年度)		再 評 価 時 (平成 10 年度)		再々 評 価 時 (平成 16 年度)		完了時 (平成 19 年度)	
事業採択予定年度	S61年度	事業採択年度	S61年度	事業採択年度	S61年度	事業採択年度	S61年度
用地買収着手予定年	S63年度	用地買収着手年度	S63年度	用地買収着手年度	S63年度	用地買収着手年度	S63年度
工事着手予定年度	S61年度	工事着手年度	S61年度	工事着手年度	S61年度	工事着手年度	S61年度
		計画変更実施年度	-	計画変更実施年度	H11年度	計画変更実施年度	H11年度
完成予定年度	H11年度	完成予定年度	H11年度	完成予定年度	H20年度	完成年度	H19年度

概要

【事業期間の変更状況とその要因】

◆全体事業計画等変更内容

・平成11年度:対策ブロックにおいて、当初計画の対策工を実施したが、その後の観測においてなおも地すべり変動が確認されたことから、地下水排除工および抑止アンカー工の追加対策を実施したことにより、完成予定年度が平成20年度に変更となった。しかしながら、工事請負差金等を活用することで事業進捗が図られ、平成19年度に完成となったもの。

事業の概要	施設管理状況
	<p>地すべり対策施設の管理者は宮城県であり、定期的に構造物の点検や除草等の維持管理を行うことで構造物の機能保全を図っている。また、当該箇所は地すべり挙動自動観測装置を設置しており、異常値を検知した場合、土木事務所ならびに担当者へ自動通報されるシステムにより、迅速な対応がとれるよう常時監視体制を整えている。</p>
事業の有効性	事業効果
	<p>○効果の発現状況 事業の実施により、地すべり挙動は抑制・抑止されている。現在のところ、観測システムにおいて異常な値は観測されていない。</p> <p>○想定される事業効果 事業の実施により、地すべり挙動は抑止・抑制されており、想定している地すべり挙動に対して所定の安全性が確保されている。これにより、地すべりブロック内の人命ならびに人家・耕地等資産に対する土砂災害が未然に防止された。また、地すべりブロック内に位置する県道南蔵王白石線(第3次緊急輸送路)や白石市道が保全されたことにより、地域住民の生活道路の安全性が確保され、また大規模災害時の重要な輸送路ならびに土砂災害時の安全な避難路が確保された。</p> <p>※保全対象 <ul style="list-style-type: none"> ・人家:27戸 ・道路:県道2,470m, 市道3,488m, 橋梁2橋 ・耕地:13.7ha ・集会所:1棟 ・人命:12人 </p> <p>※費用対効果分析結果(再々評価時平成16年、基準年平成16年) <ul style="list-style-type: none"> ・B/C(H16) = 3.41 </p> <p>※費用対効果分析結果(完了時平成19年、基準年平成19年) <ul style="list-style-type: none"> ・B/C(H19) = 4.12 <p>→事業費0.30億円の減により費用が低下し、かつ計画より1年早く完成したことで事業効果発現が早まり便益が増大した結果、B/Cが増大したもの。</p> </p>

再評価部会意見への対応状況

再評価実施状況		
再評価実施年度	平成10年度	
答	答 申	継続妥当
	条 件	なし
申	別紙意見	1 審議対象事業の実施に関する意見 なし 2 今後の事業実施に関する意見 なし
	評価結果	事業継続
評価結果	対応方針	なし
	別紙意見 に対する 対応方針	1 審議対象事業の実施に関する意見への対応方針 なし 2 今後の事業実施に関する意見への対応方針 なし

再々評価実施状況		
再々評価実施年度	平成16年度	
答	答 申	継続妥当
	条 件	なし
申	別紙意見	1 審議対象事業の実施に関する意見 なし 2 今後の事業実施に関する意見 なし
	評価結果	事業継続
評価結果	対応方針	なし
	別紙意見 に対する 対応方針	1 審議対象事業の実施に関する意見への対応方針 なし 2 今後の事業実施に関する意見への対応方針 なし

対応状況

該当なし

今後の課題等

事業目的の達成状況等の総括・今後の課題と対応策等
<p>弥治郎地区は伝統こけしである「弥治郎こけし」発祥の地であり、観光拠点となる「弥治郎こけし村」も当該地すべり対策事業の保全対象となっている。土砂災害から人命・財産を保全し、避難路や緊急輸送路等の重要な公共施設の安全性を確保するのみならず、地域の伝統工芸・観光産業を守っていく観点からも当該地すべり対策事業の実施は地域にとって非常に重要な役割を担っていると考える。</p> <p>しかしながら、地すべり現象は地震等の地殻変動や降雨の規模によって、当初の想定と全く異なる挙動を示す可能性があり、今回実施した対策により完全に安全が確保されることはない。従って異常の兆候を迅速に把握し対応するため、自動観測システムや点検パトロールにより常に監視や維持補修を実施していく必要がある。</p> <p>ストックマネジメントをはじめとする効率的・効果的な維持管理の在り方については、現在県土木部で積極的に検討が進められているところであり、その方針を踏まえよりよい危機管理・維持管理に努めていく必要がある。</p>

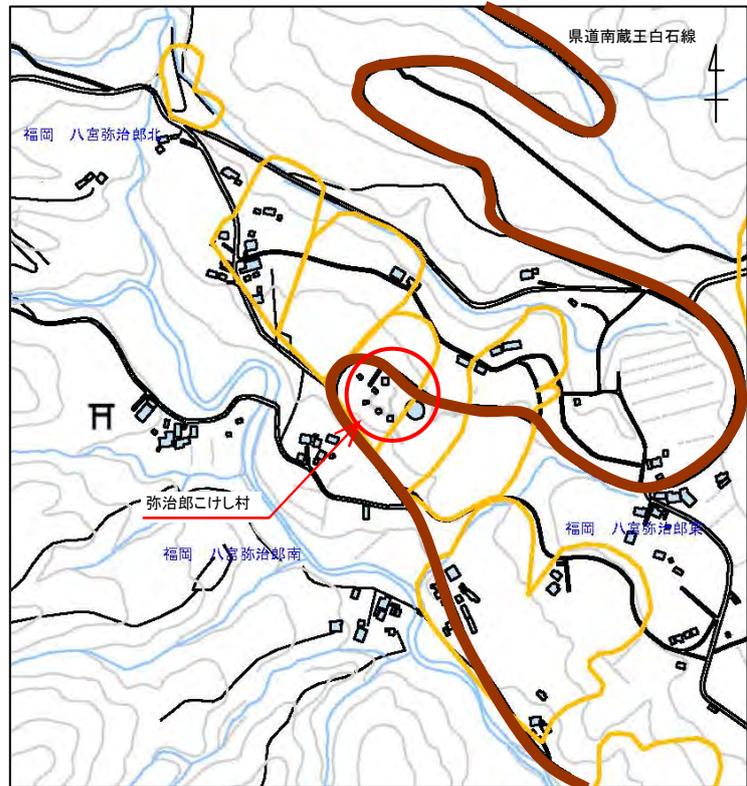
位置図



位置図(1:50,000)



全県図

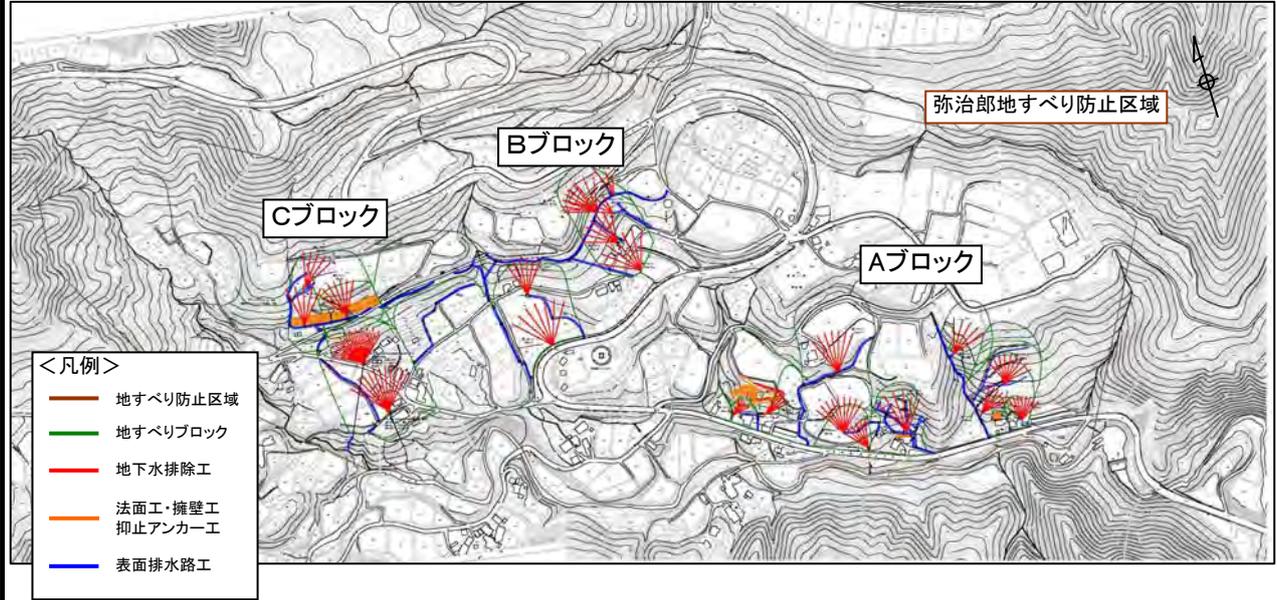


位置図(1:9,000)

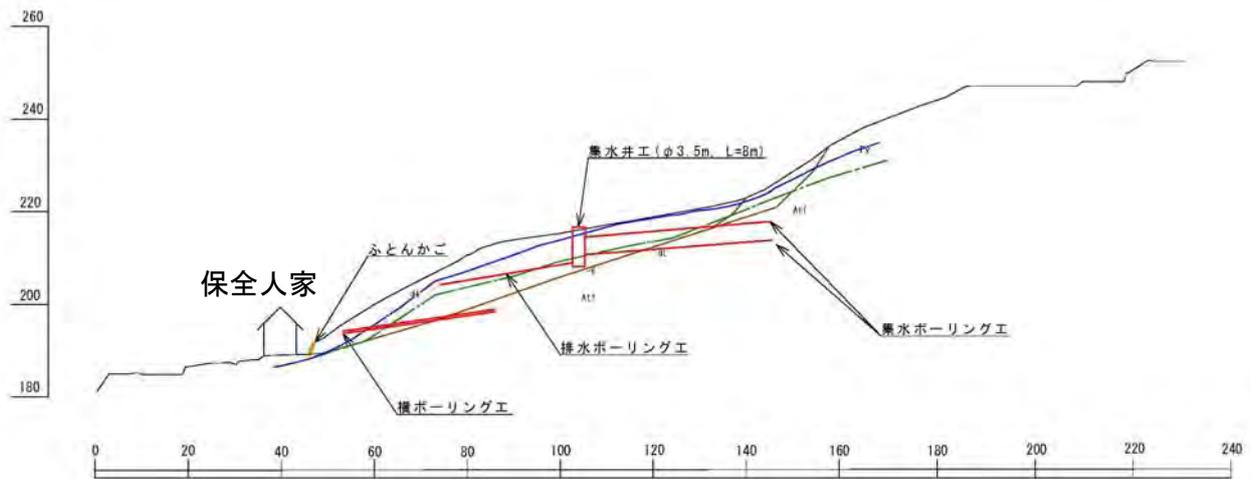
事業概要図

事業名	やじろう 弥治郎地すべり対策事業	施工地名	しろいしふくおかやつみやあざやじろう 白石市福岡八宮字弥治郎地内
-----	---------------------	------	-------------------------------------

◇地すべり対策工計画平面図



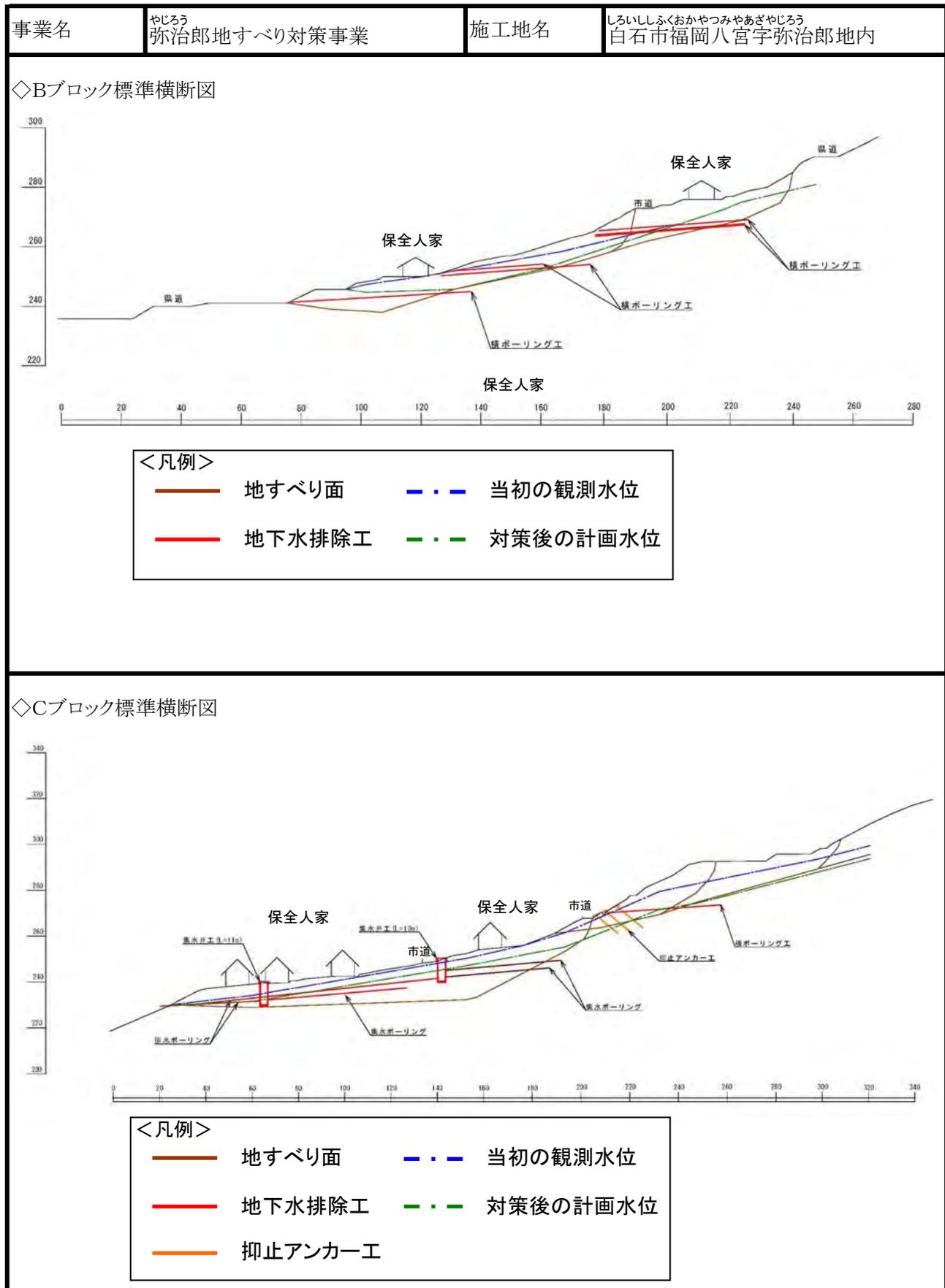
◇Aブロック標準横断面図



<凡例>

地すべり面	当初の観測水位
地下水排除工	対策後の計画水位
擁壁工	

事業概要図



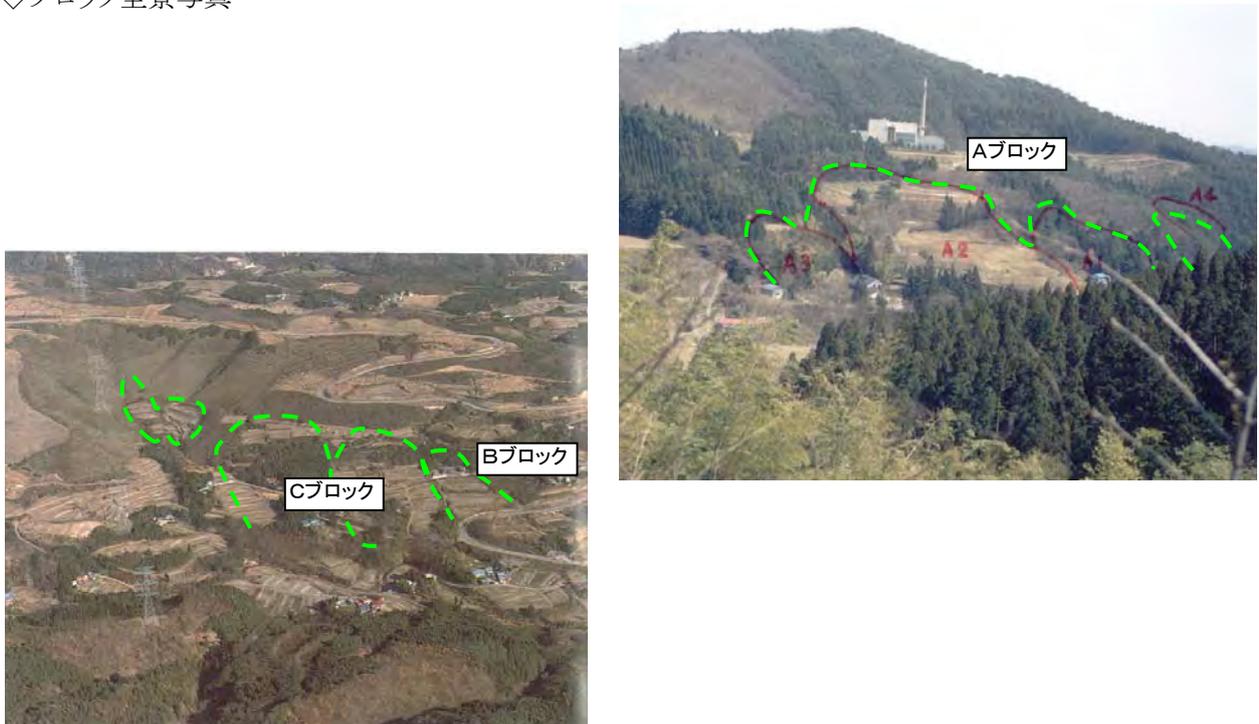
事業完成後の状況等

事業名	やじろう 弥治郎地すべり対策事業	施工地名	しろいしふくおかやつみやあざやじろう 白石市福岡八宮字弥治郎地内
-----	---------------------	------	-------------------------------------

◇航空写真



◇ブロック全景写真



事業完成後の状況等

事業名	やじろう 弥治郎地すべり対策事業	施工地名	しろいしふくおかやつみやあざやじろう 白石市福岡八宮字弥治郎地内
-----	---------------------	------	-------------------------------------

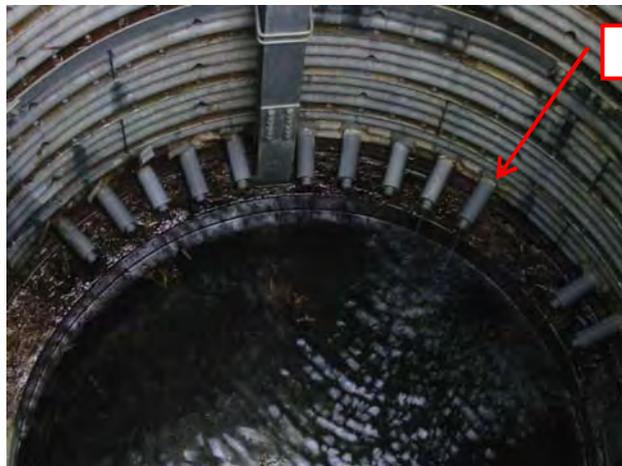
◇対策工完成状況写真
<地下水排除工>



集水井着工前



集水井完成



集水ボーリング

井戸内部の状況

事業完成後の状況等

事業名	やじろう 弥治郎地すべり対策事業	施工地名	しろいしふくおかやつみやあざやじろう 白石市福岡八宮字弥治郎地内
◇対策工完成状況写真			
<抑止アンカー工>			
			
抑止アンカー工着工前			
			
抑止アンカー工完成			
			
抑止アンカー工完成			

事業施工状況等

事業名	やじろう 弥治郎地すべり対策事業	施工地名	しろいしふくおかやつみやあざやじろう 白石市福岡八宮字弥治郎地内
◇対策工完成状況写真 <その他>			
			
井桁擁壁工			
			
ふとんかご工			
			
地下水排除工(横ボーリング)			
			
表面排水路工			